

みち、ひと…未来へ。



ブランドネーム：NEXCO（ネクスコ）西日本

会社の英語表記「West **N**ippon **E**xpressway **C**ompany Limited」の頭文字の一部からとりました。このブランドネームは、同時に、私たちの姿勢や熱意を示した「みち」とともに、「みち」の先へを表す「Next（次なる）」と、「Co（「共に」を表す接頭語）」の2つの語を包含しています。

ロゴマーク

NEXCOの頭文字「N」を3次元的に造形することによって、未来へと続く高速道路のダイナミズムを表すと同時に、「道进行くこと」がもたらしてくれる心の躍動感を表しています。また、組み合わせるロゴタイプは、丸みと広がりを持たせたボールド書体によって、ゆとりのある道路空間を表現するとともに、高速移動中でも高い視認性を実現しています。

ブランドカラー「ネクスコ・ブルー」

西日本・南日本の海と空の明るさをイメージした、鮮やかで清澄感のある青色です。



宮崎自動車道全線開通 40 周年

表紙写真説明

宮崎自動車道は、宮崎県の宮崎市からえびの市を結ぶ高速道路として、1981年10月29日に全線が開通し、今年（2021年）で全線開通40周年を迎えました。写真は、その宮崎自動車道と南国の情緒や霧島連山などの自然豊かな美しい景色を撮影したものです。

お問い合わせ先

西日本高速道路株式会社 本社 CSR推進課
TEL (06) 6344-4000 (代表) FAX (06) 6344-7183

インターネットからのお問い合わせ：
NEXCO西日本ウェブサイト (<https://www.w-nexco.co.jp>) から、[お問い合わせ] ページへアクセスできます。



NEXCO西日本グループレポート

2021

グループ理念

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、
高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。

グループ行動憲章（抜粋）

高速道路は、人々の生活に深く根差し、永く将来にわたり我が国の文化・産業の発展に寄与する重要な社会基盤です。私たちNEXCO西日本グループは、人や物の全国的な交流・流通を支える高速道路事業やSAPA事業などの関連事業への取り組みを通じて、西日本地域の経済の発展と生活の向上に貢献するという使命に応え、また良好な環境の保全・形成や、技術や人材交流を通じた国際社会の発展などに積極的に取り組み、あらゆる面で良き企業市民として社会的責任（Corporate Social Responsibility）を全うすることで、常に社会と調和し、社会から信頼される存在でありたいと考えます。

1. 法令や社会のルールを遵守し、いかなる場合であっても、決してこれに反する行為は行いません。
2. 自由で活発な創造的企業活動を、公正を旨として行います。
3. 一人ひとりがグループにおける自らの役割と権限を自覚し、その責任を全うするため、全力を尽くします。
4. 企業活動における情報の重要性を踏まえて、情報の入手と活用及び適正な取り扱いを常に心がけて行動します。
5. 5つのステークホルダー（お客さま、社会、投資家及び国民の皆さま、グループの社員、お取引先）の信頼に応えます。

グループのCSR活動方針

事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します

当社グループの最大のCSRは、本業（事業活動）を通じて社会の持続的な発展に貢献することです。

具体的には「高速道路の安全・安心の確保と着実な整備」、「SA・PAでのお客さまサービスの提供」であり、それらを着実に実行することにより、社会の発展への貢献、ひいてはグループの成長につながっていくものと考えています。

社会の持続的な発展 — NEXCO西日本グループの成長 —

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



| | | | | |
|----|-----------------------|---|-----|-----------------|
| 目次 | 経営理念 | 1 | 特集 | |
| | トップメッセージ | 3 | 特集1 | 災害対応力の強化 |
| | NEXCO西日本グループについて | | 特集2 | 高速道路の長期保全 |
| | NEXCO西日本グループの事業 | 5 | 特集3 | 高速道路ネットワークの機能強化 |
| | 高速道路事業のスキーム | 7 | 特集4 | とりもどそう! 元気なニッポン |
| | 新型コロナウイルス感染症による経営への影響 | | | |
| | 中期経営計画「進化2025」 | 9 | | |

| | | |
|-----------------|-------------------|----|
| ステークホルダーとともに | コーポレート・ガバナンス | 37 |
| お客さま | データ集 | |
| 社会 | 財務報告 | 39 |
| 投資家・国民の皆さま | CSRの重要課題と取り組み状況 | 41 |
| お取引先 | NEXCO西日本グループの概要 | |
| グループ社員 | 事業エリア・会社概要・グループ会社 | 45 |
| より広い社会、未来への働きかけ | NEXCO西日本グループのあゆみ | 47 |
| 環境保全 | 第三者意見 | 49 |
| 社会貢献 | 編集方針・アンケート結果 | 50 |

使用する略称
本レポートでは、「NEXCO西日本」「当社」は西日本高速道路株式会社を、「NEXCO西日本グループ」「当社グループ」は西日本高速道路株式会社とその子会社及び関連会社を含めたグループ全体を表します。
また、「高速道路機構」は、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構を表します。インターチェンジは「IC」、ジャンクションは「JCT」、サービスエリアは「SA」、パーキングエリアは「PA」と略記します。

取り巻く経営環境と 中期経営計画「進化2025」

昨年から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延により、国民経済や生活が大きく制約され、不要不急の移動の自粛など社会生活は一変しました。この影響を受け、2020年度決算は、会社設立以来初めての純損失を計上するなど厳しい経営環境が続いています。

このような厳しい経営環境の中、withコロナ時代に浮き彫りとなったことは、日本の経済を支えていただいている物流のトラックなど業務交通の方々、いわゆるエッセンシャルワーカーと言われる方々を中心に高速道路を多くご利用いただいたこととあります。こうした経営環境にあっても、そうした方々をはじめ高速道路をご利用いただくすべてのお客さまの安全・安心な走行を確保していくことが当社グループの使命であり、この使命を引き続き確実に果たしてまいりたいと考えています。

また、近年、地球温暖化に伴い、豪雨災害や台風被害の激甚化・頻発化、南海トラフ地震や直下型地震などの緊急事態への対処、すなわち災害対応力が強く求められています。

一方で、先進デジタル技術の急速な進歩など、日々の技術革新には目を見張るものがあり、今後、自動運転などCASE（Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動化）、Shared&Service（シェアリング&サービス）、Electric（電動化））の進展により、高速道路に求められる機能や役割の大きな変化にも適応していきます。

このため、今後5ヵ年における中期経営計画として、将来の高速道路を取り巻く環境や新たなモビリティ社会の到来を見据え、未来の進化した高速道路の姿を描きながら、将来のありたい姿として5つのビジョンを示した上で、その実現のため



西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

前川 秀和

の重点施策を策定し、「進化2025」と題して、当社グループが取り組むべき計画をとりまとめました。

NEXCO 西日本グループの進化

私たちは、このような経営環境の大きな変化に柔軟に対応する「進化」を遂げることで、社会から求められる役割や使命を果たすとともに、高速道路の新たな付加価値を生み出していきたいと考えています。

その上で、24時間365日、高速道路の機能・サービスを間断なく提供するとともに、高速道路がつかっていない区間（ミッシングリンク）の着実な整備や4車線化・スマートIC整備などによる機能強化に加え、リニューアルプロジェクトによる高速道路の長期保全を進めてまいります。

今後も、安全・安心を最優先に、DXの導入などにより、業務の大胆な刷新、社員一人一人が健康的で生き生きと活躍できる働き方改革の推進など、新たな時代に即した組織への変革を図り、進化した高速道路サービスを提供してまいります。

CSRへの社会の動きと対応

高速道路の進化に挑み続けることにより社会インフラの機能をさらに高め、我が国の持続的な発展と豊かな未来の実現に貢献することがNEXCO西日本グループの理念であり、社会的責任（CSR）であると考えています。そして私たちは、事業活動を通じて、ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する取り組みを推進し、国連が採択した「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献していきます。

おわりに

あらゆる事業活動を通じてお客さまや株主の皆さまをはじめ、協力会社やお取引先、グループ社員、沿道地域の皆さまなど、様々なステークホルダーへの責任を果たすことに努めていきます。皆さまには、本レポートやNEXCO西日本グループの今後の活動に対して、忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げます。



進化2025における5つのビジョン

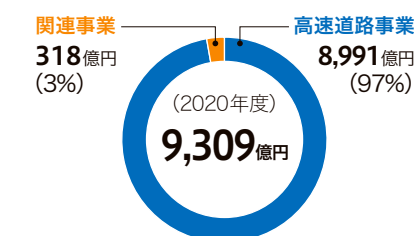
- | | | | |
|--|---|--|-------------------------------|
| 01 高速道路の 安全・安心を いつまでも 守り抜く | 02 多発する 自然災害から 地域と暮らしを 守り抜く | 03 新しいモビリティ 社会に向けて 高速道路を 進化させる | 04 高速道路の 顧客体験価値を 高める |
| 05 持続的に進化する企業を目指す | | | |

※中期経営計画「進化2025」はP9に掲載

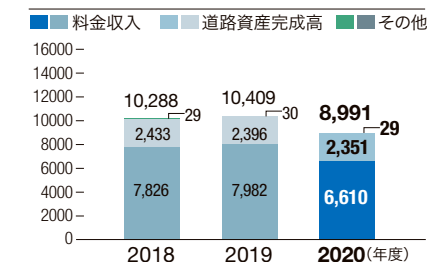
NEXCO西日本グループの事業

NEXCO西日本グループでは、「高速道路の建設」と「安全かつ効率的な運営管理」を行う高速道路事業、お客さま満足度の向上を目指すSA・PAの運営管理等を行う関連事業を実施しています。

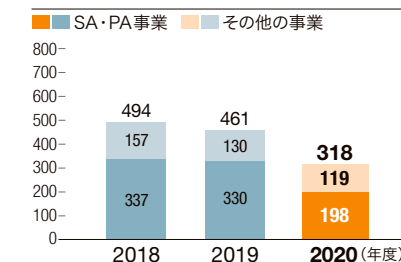
営業収益の事業別内訳※



高速道路事業の営業収益 (単位: 億円)※



関連事業の営業収益 (単位: 億円)※



※ 億円未満は切り捨てて表示しています

建設事業

地域の発展と、地域の暮らしや利便性向上に貢献するため、より安全で使いやすい高速道路ネットワークの整備や、6車線化及び4車線化事業などの既存ネットワークの機能向上を推進しています。



新名神高速道路 八幡京田辺JCT・IC



九州自動車道 桜島スマートIC 開通式

保全サービス事業

お客さまにいつでも安全・快適に高速道路をご利用いただけるよう、路面や構造物の点検、清掃、補修などの維持管理をはじめ、24時間体制で道路巡回、交通情報の提供、料金収受などを行っています。

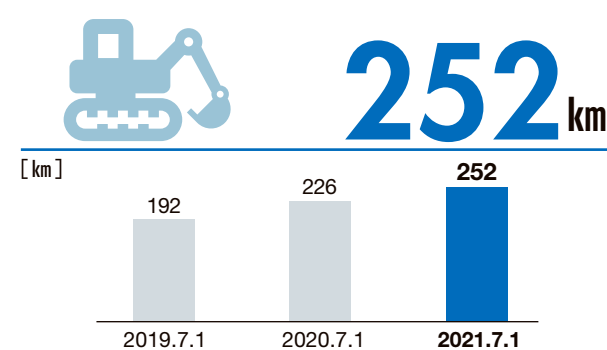


構造物の点検

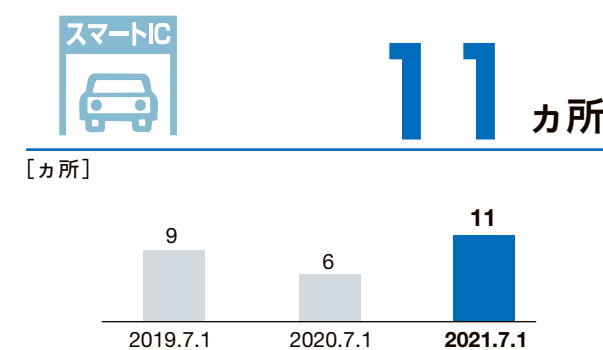


道路巡回

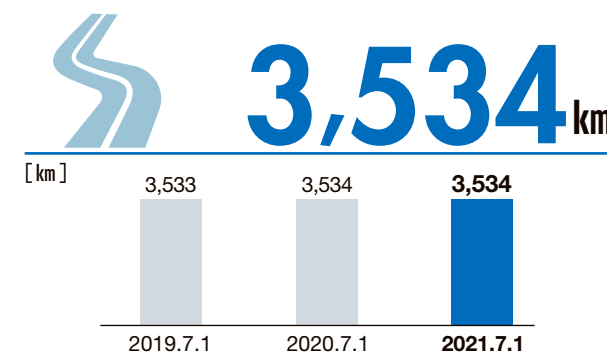
建設延長 (6車線化及び4車線化 新設 71km)



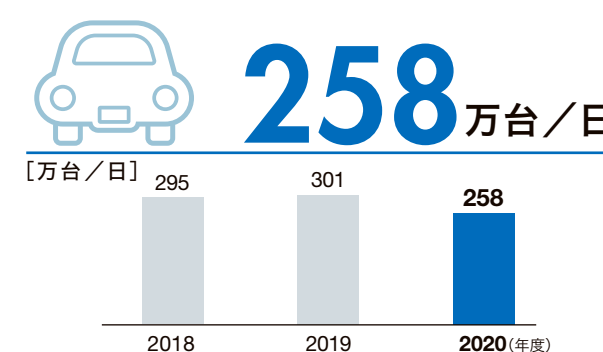
スマートIC事業中箇所



営業延長



高速道路利用台数



SA・PA事業

SA・PAにおいて、くつろぎ、楽しさ、賑わいを実感していただける空間の創出のほか、地域と連携した取り組みを実施するなど、お客さまと地域の皆さまに新たなサービスを提供しています。

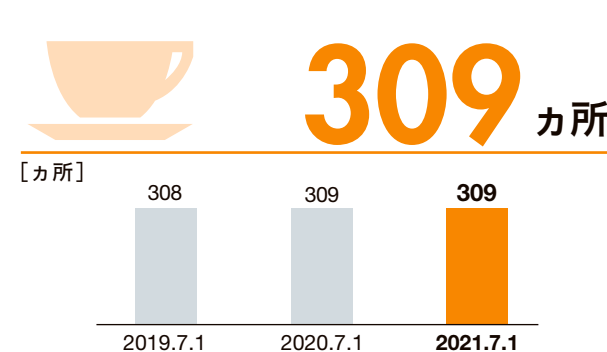


新名神高速道路 宝塚北SA 外観

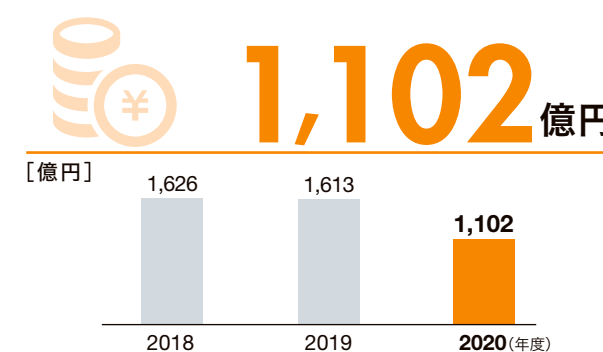


SA での地元物産展

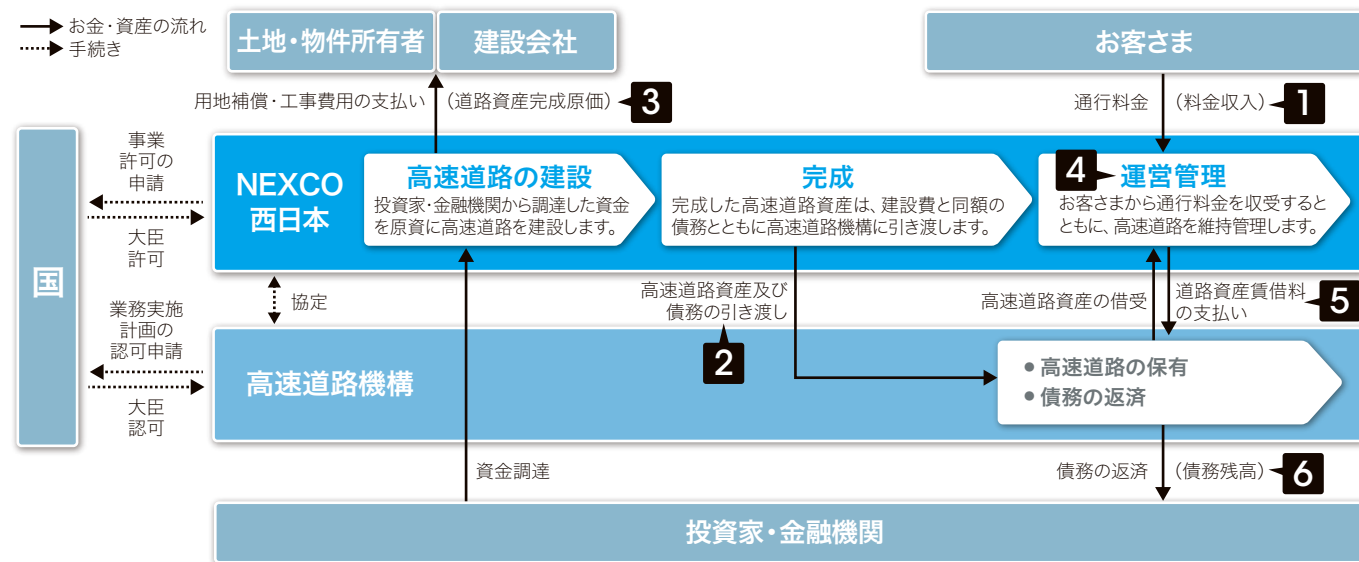
SA・PAの数



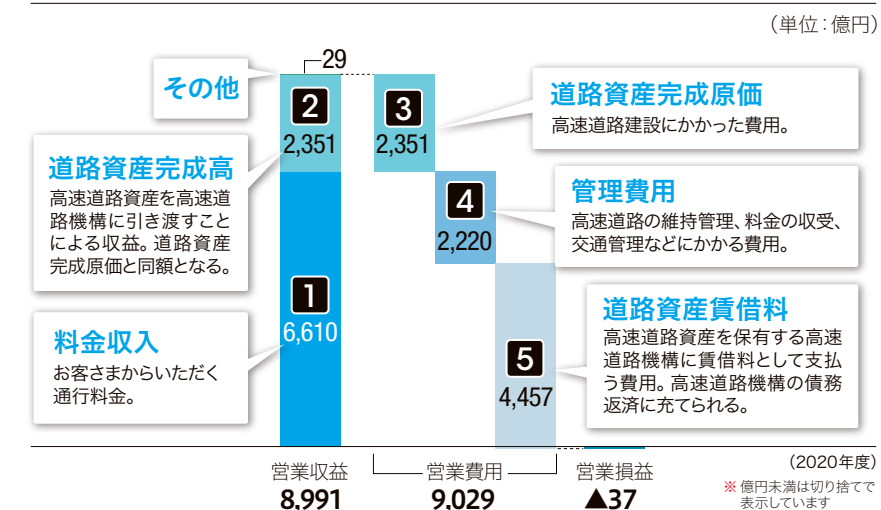
SA・PA売上高



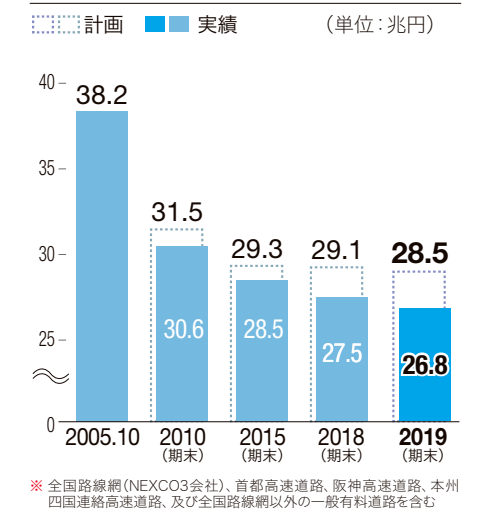
高速道路事業のスキーム



高速道路事業の損益 (1 2 3 4 5)



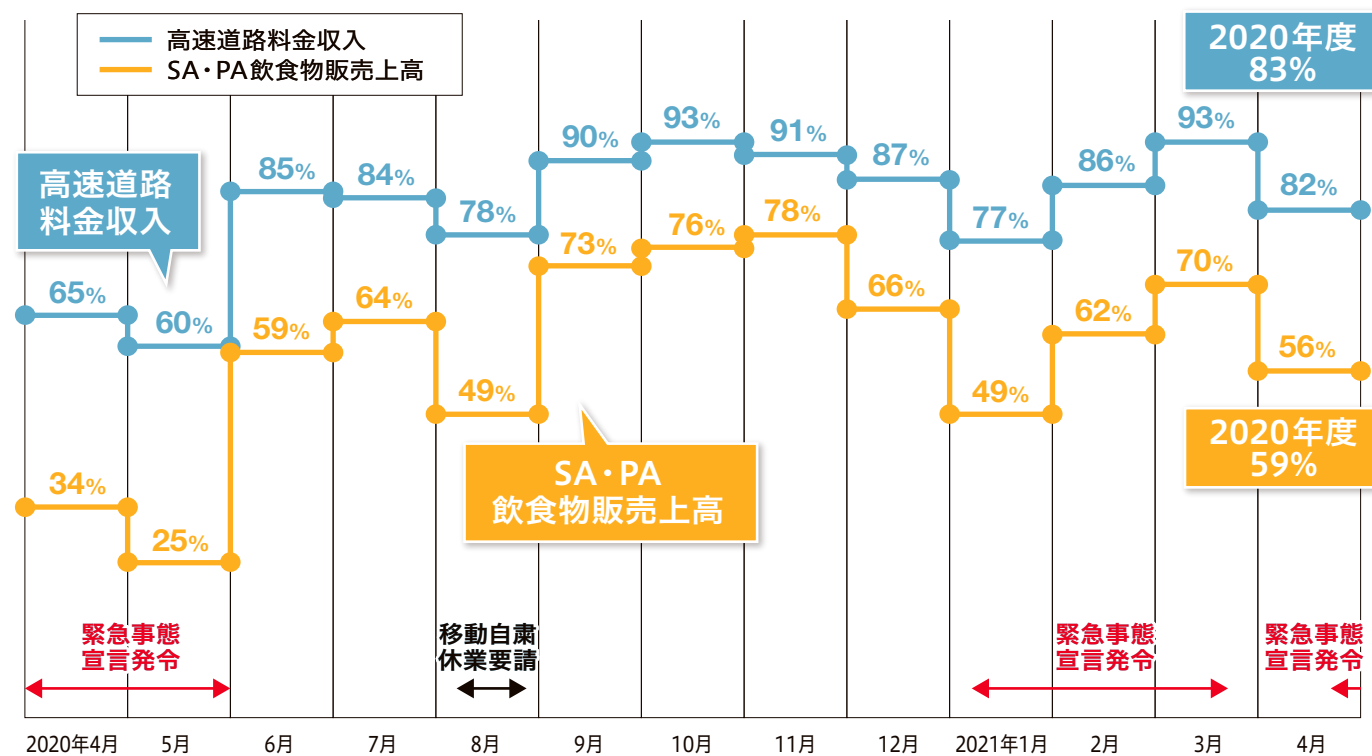
高速道路機構の債務残高 (6)



新型コロナウイルス感染症による経営への影響

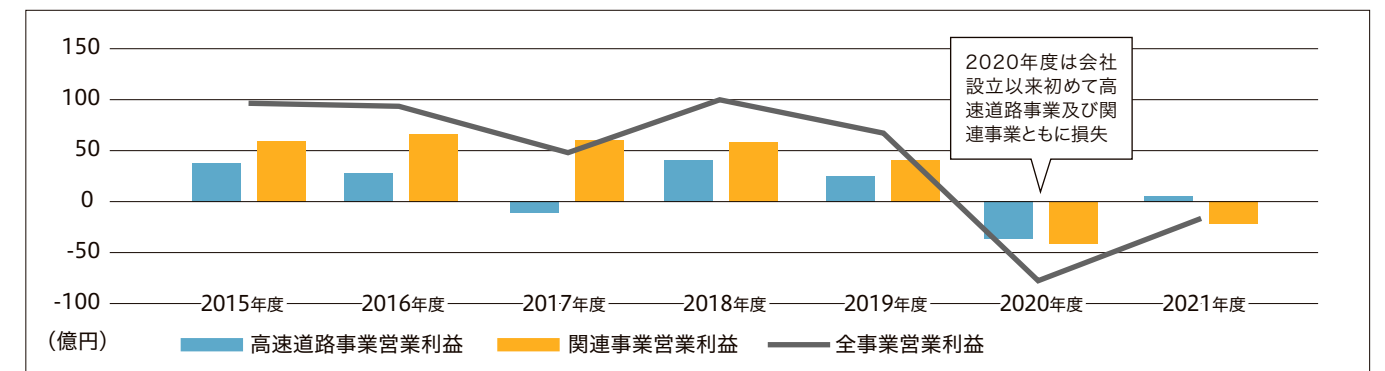
2020年度は、高速道路料金収入が対前年度比83%、SA・PA飲食物販売上高が対前年度比59%となり、2020年度決算は会社設立以来初の純損失を計上しました。また、2021年度においても純損失を計上する見込みであり、厳しい経営環境が続く見込みです。

① 高速道路料金収入とSA・PA飲食物販売上高への影響 (対前年度比較)



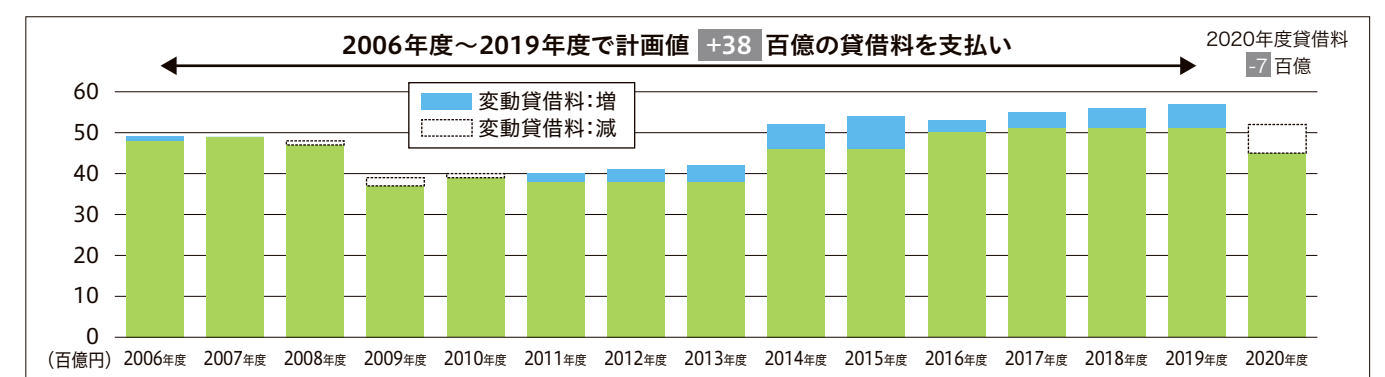
※2021年2月～4月は、2019年2月～4月との比較

② 事業別の営業収益 (連結)



また、高速道路機構への道路資産賃借料*の支払いは、変動賃借料制*が適用され、2020年度は計画に対して約7百億円の減額となりました。なお、会社設立から2019年度までの道路資産賃借料の支払い実績は、計画に対して約38百億円上回っています。

③ 高速道路機構への道路資産賃借料の支払い実績



※道路資産賃借料は、高速道路機構と会社間の協定によりあらかじめ定められていますが、料金収入の変動による会社経営の不安定化を回避し、高速道路機構による債務の償還を確実にするための措置として変動賃借料制が適用されています。

中期経営計画「進化2025」

近年の地球温暖化やデジタル技術の急速な進歩により、今後、高速道路に求められる機能や役割が大きく変化していくと考えられます。当社グループは、これらの経営環境の変化に柔軟に対応する「進化」を遂げることで、社会から求められる役割や使命を果たしていきたいと考えています。本中期経営計画では、将来のありたい姿として5つのビジョンを示した上で、その実現のため重点施策を策定し「進化2025」と題して、今後5ヵ年において当社グループが取り組むべき計画を取りまとめました。



進化2025

中期経営計画
2025

進化2025の詳細はこちら

NEXCO西日本 進化2025

検索



策定の背景

経営環境の変化

高速道路

- 高速道路の老朽化の進行
- 自然災害の激甚化・頻発化
- CASE※1・MaaS※2の進展
- 自動運転技術の向上・発展
- 次世代自動車の普及 等

社会

- 5G※3大容量通信サービスの開始
- AI※4やICT※5等の技術革新の進展
- 少子高齢化の進行
- ポストコロナ社会の新しい生活様式の定着
- SDGs※6の取り組み 等

※1 Connected (コネクテッド) ・Autonomous (自動化) ・Shared&Service (シェアリング&サービス) ・Electric (電動化)
 ※2 Mobility as a Service (サービスとしての「移動」) ※3 第5世代移動通信システム
 ※4 Artificial Intelligence (人工知能) ※5 Information and Communication Technology (情報通信技術)
 ※6 Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)

5つのビジョンと重点施策

01 高速道路の安全・安心をいつまでも守り抜く

重点
施策

点検補修の進化

大規模更新・大規模修繕の推進

交通安全対策の進化

02 多発する自然災害から地域と暮らしを守り抜く

重点
施策

ネットワークの進化
～ミッシングリンクの解消等～

ネットワークの強化
～暫定2車線区間の4車線化～

高速道路の強靱化
～耐震性の向上～

災害対応力の強化

03 新しいモビリティ社会に向けて高速道路を進化させる

重点
施策

高速道路機能の
進化

物流支援
～休憩施設の充実～

料金所の
キャッシュレス化・
タッチレス化

道路情報提供の
高度化

通信ネットワークの
進化

04 高速道路の顧客体験価値を高める

重点
施策

新しい価値を提供するSA・PAの進化

05 持続的に進化する企業を目指す

重点
施策

高速道路を
活用した
地域貢献

社員が
活躍できる
環境づくり

DX
(デジタルトランス
フォーメーション)
の推進

環境に関する
取り組みの推進
～脱炭素社会に向けて～

海外事業の
発展

SDGs達成への
貢献

災害対応力の強化

「令和2年7月豪雨」は福岡県、熊本県、鹿児島県、長崎県、佐賀県の5県で「大雨特別警報」が発令されるなど、広い範囲での記録的な大雨により、当社管内53ヵ所ですべて災害が発生しましたが、24時間体制による応急復旧工事により、早期に交通機能を確保しました。



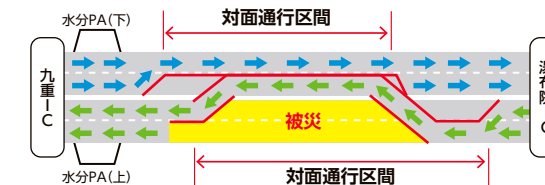
① 4車線区間での上下線2車線運用による早期交通機能の確保

2020年7月3日から10日にかけて大分自動車道 九重IC付近では総雨量767.5mmが観測され、この大雨により大分自動車道 九重IC～湯布院ICの間の上り線で土砂流出が発生し通行止めとなりました。

復旧に相当な時間を要するため、被害のなかった下り線を活用した対面通行により、発災後約72時間で通行止めを解除しました。



中央分離帯撤去の様子 レーンマーク施工の様子 対面通行規制の完成



2 河川氾濫等により地域の道路が寸断、 “高速道路を最大限に生かす” 取り組み

① 緊急開口部の活用により臨時出入口を設置

一般道の被災により、八代市坂本町では被災地域へのアクセスが寸断されたため、被災地域への代替路として九州自動車道 坂本PAの緊急開口部を地域の方々にご利用いただきました。

〔町民及び関係者へ2,200件の利用許可書を発行、約12万台が利用〕
(2021.3.31時点)

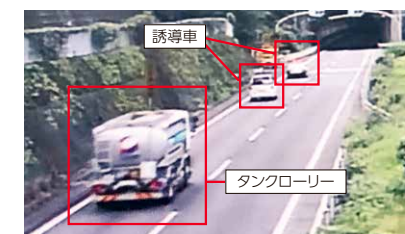
また、臨時出入口は、坂本PAのほかに鮎尾BS(バス停)・山江SAに設置し、緊急車両や災害従事車両の出入口として代替路を確保しました。



坂本PA下りの緊急開口部で
利用許可書を確認



鮎帰BS上りの緊急開口部を利用する
緊急車両



Ⅱ エスコート通行方式で燃料輸送

危険物積載車両の通行が禁止されている九州自動車道 肥後トンネルにおいて、全国の高速道路で初めて、エスコート通行方式によるタンクローリーの通行を実施し、被災地への輸送を確保しました。

※ 2016 年 8 月に長大トンネル等における災害時の通行規制が緩和されました。

Ⅲ 一般道の代替として高速道路の無料措置

自治体の要請を受け、九州自動車道 八代IC～人吉IC、大分自動車道 杷木IC～湯布院ICの区間で被災した一般道の代替路(無料)措置を実施しました。

Voice ▶ 柔軟な対応で、被災地の復旧・復興を力強く支援

令和2年7月豪雨により、熊本県の広い範囲で浸水被害や土砂災害が発生しました。特に県南の球磨川では、八代市から人吉市にかけて大氾濫に襲われ、球磨川沿いを走る国道219号はいたる所で寸断され、10本の橋が流失しました。

このような状況の中、並行する九州縦貫自動車道の存在は大変心強いものでした。NEXCO 西日本様のご支援により、八代IC～人吉IC間の代替路措置を実施していただき、災害救助やボランティア活動が円滑に進みました。さらに、坂本PAのゲート開放のおかげで孤立状態となっていた集落への乗り入れや道路等の応急復旧が可能となり、地域住民の生活を守ることが出来ました。

今回の災害により、道路の「多重性」と「強靱化」の重要性を再認識したところです。今後とも道路網の緊密な連携を行い、災害からの早期の復旧・復興を図ってまいります。



熊本県土木部長
村上 義幸 様

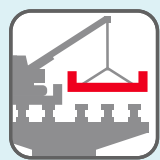




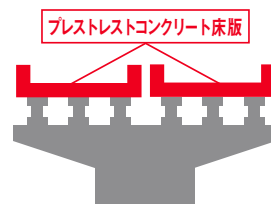
NEXCO西日本が管理する高速道路の約5割が開通から30年を超え、老朽化が進んでいます。

そのため当社では、道路ネットワーク機能を長期にわたって健全に保つため、橋梁やトンネルなどの構造物をリニューアルする、“高速道路リニューアルプロジェクト”を進めています。

大規模更新



橋 梁
(床版取替)



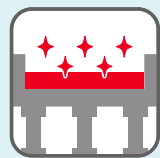
プレストレストコンクリートは、あらかじめコンクリートに圧縮応力を作用させることによって、ひびわれを生じさせない構造としたり、ごくわずかのひびわれ幅に制御することが可能。

紹介動画



中国自動車道 浦石橋

大規模修繕



橋 梁
(床版修繕)



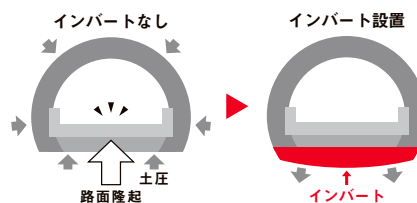
沖縄自動車道 福地川橋



大規模修繕



トンネル
(インパート設置)



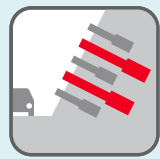
インパートと呼ばれるコンクリートを設置し、トンネルをリング状の強い構造に改良。

紹介動画



高知自動車道 明神トンネル

大規模修繕



のり面
(グラウンドアンカー)



損傷しているアンカー



アンカーの追加

紹介動画



異常気象による短時間異常降雨等への対応(のり面)

高速道路リニューアルプロジェクトでは、P13で紹介した工事のほかに、のり面における排水機能の強化を進めています。

過年度の降雨災害の発生事例を分析すると、排水構造物が直接関与した崩壊が約半数を占め、さらに、排水構造物が直接関与した崩壊のうち約半数が縦溝や集水ますなどの合流部で発生しているため、のり面にある排水構造物の大規模修繕に取り組んでいます。



修繕前の縦溝



修繕後の集水ますと縦溝



TOPICS

中国自動車道リニューアルプロジェクト(吹田JCT～神戸JCT)

大阪万博が開催された1970年より順次開通した中国自動車道 吹田JCT～神戸JCT間は、開通から約50年が経過し、橋梁等の構造物の損傷が進行しています。このため、抜本的な対策として2020年度より、主に橋梁の桁や床版を取り替えるリニューアル工事を実施しています。

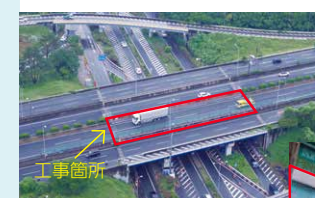
紹介漫画



紹介動画



2020年度実施概要



①工事前



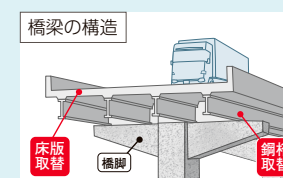
鋼桁取替



②床版撤去



③鋼桁撤去



床版取替



⑥工事完了



⑤舗装施工



④床版・鋼桁架設

2021年度以降の中国自動車道リニューアル工事の交通規制計画

| 区 間 | 2021年度(R3年度) | | | | 2022年度(R4年度) | | | | 2023年度(R5年度) | | | | 2024年度(R6年度) | | | |
|----------------|--|----|------|----|--------------|----|-----|----|--------------|-----|-----|----|--------------|----|-----|----|
| | 4月 | 7月 | 10月 | 1月 | 4月 | 7月 | 10月 | 1月 | 4月 | 7月 | 10月 | 1月 | 4月 | 7月 | 10月 | 1月 |
| ① 吹田JCT～中国池田IC | 終日通行止め(上下線) 約1.5ヵ月×6回 ※交通混雑期(ゴールデンウィーク、お盆、年末年始)は実施しない | | | | | | | | | | | | | | | |
| ② 中国池田IC～宝塚IC | 終日車線規制[6→4車線運用] 通年 ※交通混雑期は6車線運用 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③ 宝塚IC～神戸JCT | GW | お盆 | 年末年始 | | | | | | 交通規制・工事計画 | 検討中 | | | | | | |

工事期間中は、お客さまや地域住民の皆さまへの影響を最小限に抑えるための施策を実施していきます。

さらなるネットワーク強化の取り組み

当社では、暫定2車線区間における交通渋滞の解消や安全性のさらなる向上を目的とし、渋滞や事故が多く発生している区間から順次、4車線化を進めています。

■暫定2車線区間の課題

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができないため、後続車両を含め全体的に速度が低下



阪和自動車道 印南IC～みなべIC

冬季の積雪等により立ち往生車両が生じた場合、立ち往生車両の追越ができないため、通行止め等が発生



米子自動車道 蒜山IC～江府IC

災害が発生すると長期通行止めが余儀なくされ、緊急輸送路としての機能を発揮することができず、地域社会・経済に大きな影響



2018年西日本豪雨による広島呉道路

■4車線化の計画



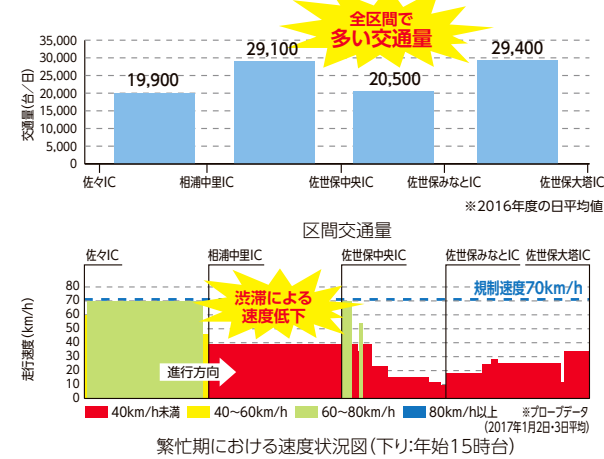
■4車線化事業の推進〔佐世保道路4車線化事業〕

佐世保道路佐々IC～佐世保大塔IC間の約16.9kmで4車線化事業を進めています。

当該事業は、供用中の佐世保道路を2車線から4車線へ拡張する事業です。この整備により、安全性・走行性の向上、産業・経済・文化の発展に貢献すると期待されます。



①交通量の多い区間では約3万台/日の利用があり、交通集中等により速度低下が生じています。



佐々佐世保道路の渋滞状況

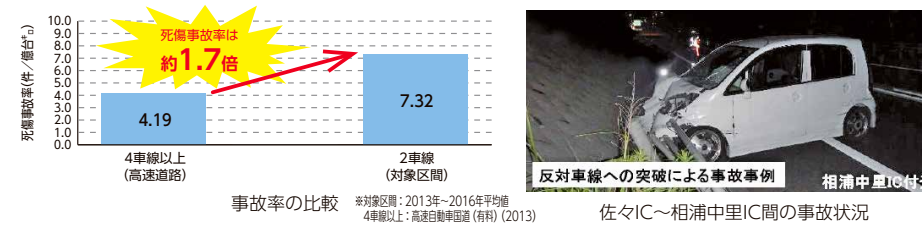


佐世保道路の渋滞状況

渋滞解消による
物流効率化と
企業立地促進

4車線化効果

②交通事故の多発と反対車線への突破事故が発生しています。

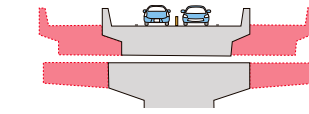


剛性の高い
中央分離帯の
設置による
中央突破事故の減少

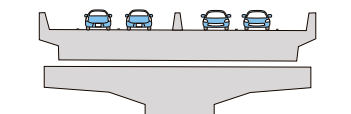
③暫定2車線で供用している橋梁の両端に1車線ずつ追加することで4車線化を実現します。

佐世保駅前の約1.9kmでは、県道11号の中央部に佐世保道路の橋脚があり、この橋脚の上部にある橋梁の両側を拡張する4車線化工事を行います。

この工事により、2021年9月頃から約5年にわたり、随時、佐世保道路と県道11号の夜間通行止めを実施します。お客さま、沿道にお住まいの皆さまへご不便、ご迷惑をお掛けしますが、安全確保のため、ご理解とご協力をお願いします。



現在



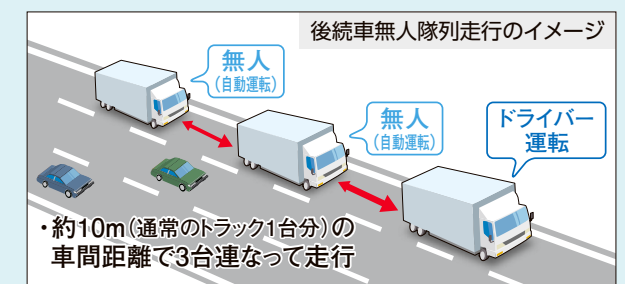
完成後イメージ

TOPICS

後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備 ～新名神高速道路の6車線化の推進～

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化する中での労働生産性の向上や働き方改革の実現など、短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。

現在、後続車無人隊列走行システム(東京～大阪間)の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から新名神高速道路の6車線化等を進めています。



〈物流の効率化・ドライバー不足の解消〉



SAPA2020 とりもどそう！ 元氣なニッポン

『SAPA2020とりもどそう！
元氣なニッポン』を合言葉
に、SA・PAをご利用され
るお客さまと地域の皆さま
にコロナ禍以前の「元氣」
を取り戻していただけるよう
全力で応援する取り組み
を展開しました。

『新しい生活様式』の定着推進 ー新型コロナウイルス感染症拡大防止の取り組みー

当社グループでは、安全・安心
に応援企画を行う上で「新しい生活
様式」の定着推進は必須事項と考え
ています。SA・PAではこれからも、
お客さまとともに良い空間づ
くりを目指すべく、新型コロナウ
イルス感染症拡大防止に万全の対
策を講じてまいります。

【参考】
SA・PAにおける新型コロナウイルス感染症拡大防止
の取り組み事例



レジ待ち距離の確保



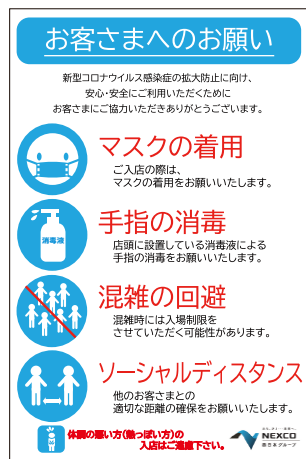
飛沫防止シートの設置



客席の間引き



パーテーションの設置



ーキャッシュレス決済の推進ー

当社のSA・PAでは、キャッシュレス決済による「新しい生活様式」への対応として、新
たにQRコード決済の取り扱いを開始しました。

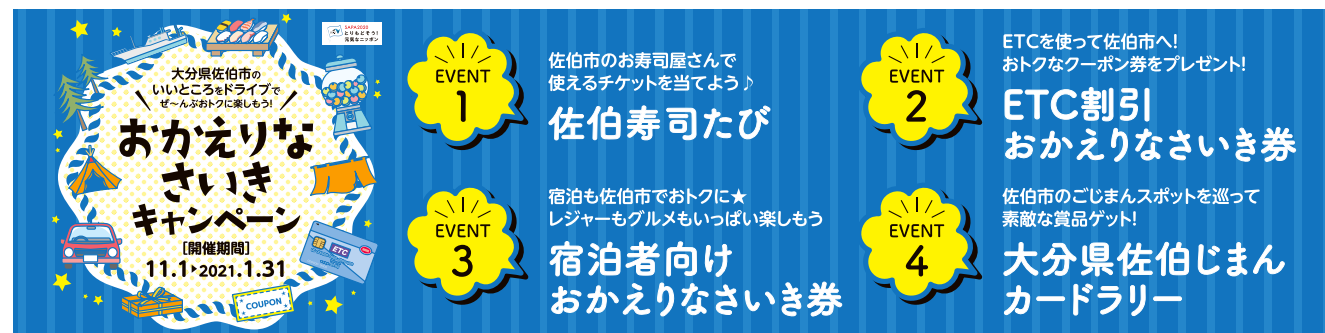
| | POS レジ | 券売機 |
|---------|------------------------|---|
| 電子マネー | | |
| QRコード決済 | <p>2020年8月から取り扱い開始</p> | <p>交通系については 機器入替時に順次導入</p> <p>機器入替時に 順次導入</p> |



イオンNEXCO西日本カード
好評発行中

「地域」の応援企画

高速道路を利用して大分県佐伯市へ誘客を図ることを目的とした連携事業「おかえりなさいきキャンペーン」を
佐伯市と共同で実施しました。



目玉企画 | 佐伯寿司たび

大分自動車道 山田SA（下り線）に設置された「寿司チケット小型自販機」に、佐伯市にある寿司店で使える「寿司
チケット」が入っており、SAに立ち寄ったお客さまと地域の日常を小型自販機でつなぐという初めての試みを実施
しました。販売からわずか17日で1,000枚が完売し、チケットを1,500枚追加するも約1ヵ月で完売するほど大
好評をいただきました。

キャンペーンにご参加いただいた寿司店からは、「満席でお断りすることもあるぐらい嬉しい忙しさだった。」との
喜びの声が聞かれました。



寿司チケット小型自販機（1回500円）

| | |
|----|----------|
| 1等 | 10,000円分 |
| 2等 | 5,000円分 |
| 3等 | 3,000円分 |
| 末等 | 1,000円分 |



佐伯市の12店舗の寿司店で寿司チケットが利用可能

「頑張っている皆さま」の応援企画

ーSA・PAの応援企画開催ー

「SAPA2020とりもどそう！元氣なニッポン」という合言葉のもと、「新しい生活
様式」で頑張る皆さまに感謝をお伝えし、SA・PAをご利用されるお客さまへの
応援企画として、よりお得にお買い物を楽しんでいただくため、「SAPAお客さま感謝
DAY」・「SAPAプレミアム水曜日」を開催しました。



ーコロナ禍におけるテナントとのパートナーシップー

コロナ禍では、不要不急の移動自粛などによりSA・PAをご利用いただくお客さまが大幅に減り、SA・PAで
営業いただくテナントの売り上げに大きな影響が生じたことから、当社グループでは、テナント賃料の支払いの
猶予や、減免措置等を実施しました。

これらの取り組みにより、テナント各社とのパートナーシップを強固なものとし、ともにお客さまに喜んでい
ただけるサービスの維持につなげていきたいと考えています。



Essential Workerの皆さまへ
のお礼のチラシを掲示

交通安全の取り組み

交通安全の啓発 危険運転撲滅プロジェクトの推進

当社と阪神高速道路(株)、本州四国連絡高速道路(株)、(株)エフエム大阪の4社共同で、高速道路での交通事故につながる「ながら運転」による危険運転を撲滅し、交通事故ゼロを目指すべく、「STOP! NAGARA DRIVING PROJECT(通称SNDプロジェクト)」を推進しています。2020年度は、「Heart to Heart 伝えよう!届けよう!SNDメッセージキャンペーン」を開催。ながら運転撲滅に対するメッセージを公募し、2021年2月にグランプリが決定しました。



STOP!
NAGARA DRIVING PROJECT
交通事故をゼロにするための危険運転撲滅プロジェクト



ともに行動・応援してくれるサポーターを募集中



4社の社長による最終審査会

テーマ
スマホ見ながら運転

『今から帰るよ。』
そのメッセージが、
家族にとって
最後の言葉に
なるかもしれない。

グランプリ作品

高速道路の交通管理 24時間365日体制で高速道路を巡回しています

道路の安全と円滑な交通の確保を図るため、交通管理隊が高速道路を巡回しています。

交通管理隊が収集・把握した渋滞の状況や気象情報などは道路管制センターで集約し、情報板などを通してお客さまに発信しています。

また、路上障害物が発生した際は、緊急出動して排除にあたるほか、警察・消防と連携した事故対応、故障車に対する援助などを通じて、お客さまの快適なドライブをサポートしています。



落下物排除の状況

Voice 地元ケーブルテレビを通じた交通安全啓発活動に取り組んでいます。

より多くのお客さまへ交通安全の重要性を伝えるため、ケーブルテレビを通じた啓発活動に取り組みました。

これまでに実績がない状態からのスタートでしたが、最初に高知基地の隊員自らが地元民放テレビ局に粘り強くアプローチを行い、交通管理隊の密着取材を通じた落下物防止の啓発を実現しました。

その後、取り組みを発展させ四国全県での放送を目標に、各県の交通管理隊員が地元ケーブルテレビ局へ企画を持ち込んだ結果、4県全てで放送することができました。

今後も地域の皆さまが安全・安心に高速道路をご利用いただけるよう取り組んでまいります。



西日本高速道路サービス四国(株)パトロール事業課
戸田 宗貴



高知ケーブルテレビ(高知県)



交通管理隊
中讃ケーブルビジョン(香川県)

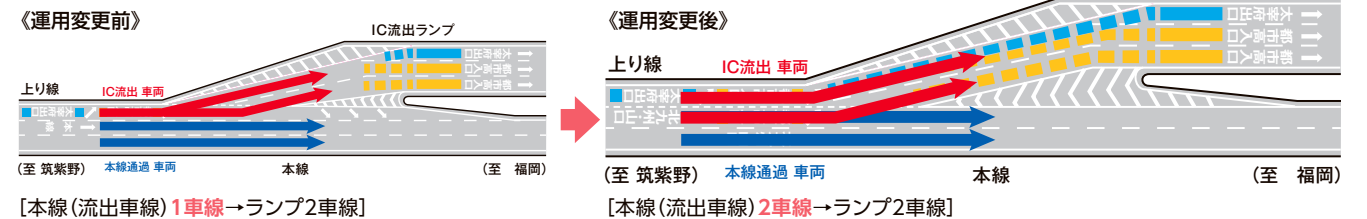
快適な高速道路走行の支援

交通渋滞の緩和 渋滞対策に取り組んでいます

九州自動車道(上り線)太宰府IC出口付近で、定常的に発生していた渋滞の緩和を目的に、IC出口へ流出する車線の運用を変更する対策を実施しました。

これまで3車線のうち左車線の1車線が一般道・都市

高速へ流出できる車線でしたが、これを左車線と中央車線の2車線から流出できる運用に変更することで、太宰府IC出口付近における渋滞回数の減少が期待されます。

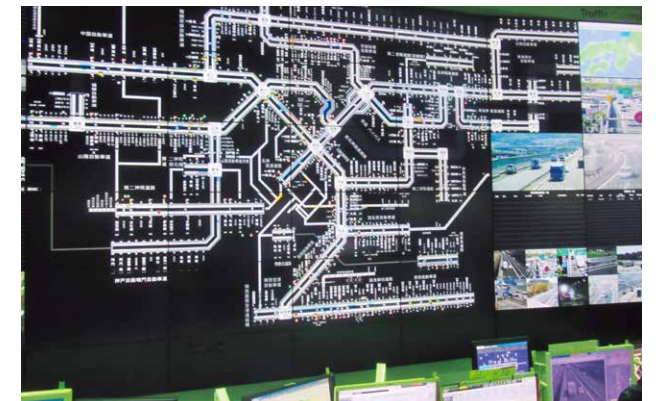


道路交通情報の発信 情報の集約・発信基地としてお客さまの安全確保に努めています

道路管制センターでは、24時間365日体制で、安全運転に必要な情報の収集・発信や道路設備の監視・制御を行い、お客さまの安全確保に努めています。同センターの交通管制部門では、交通事故や渋滞、異常気象などの情報を集約して、情報板やカーナビなどを通じてリアルタイムにドライバーに発信し、交通管理隊への緊急出動命令や警察・消防への通報を行っています。

アイハイウェイ西日本
24時間全国高速道路の道路
交通情報を提供しています。

ハイウェイ交通情報サイト
iHighway



道路管制センター

TOPICS お客さま・社会のニーズに適応した料金収受を目指し、ETC専用化等による料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進

新しいモビリティ社会に向け、お客さま・社会のニーズに適応した料金収受を目指し、ETC専用化等の取り組みによるキャッシュレス化・タッチレス化を推進します。

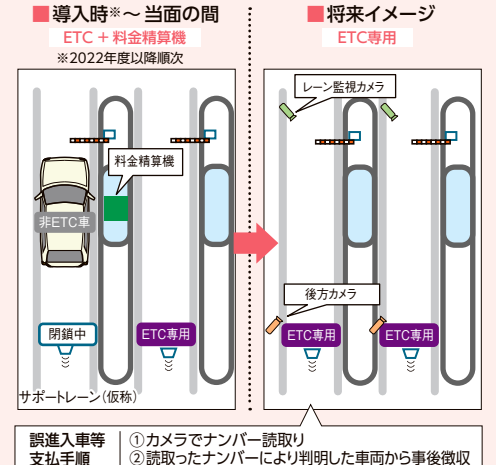
これにより、お客さまとの物理的な接触を減らし、「新しい生活様式」の実現を目指します。当社では、都市部は5年、地方部は10年程度での概成に向けて、計画的に進めていきます。

ETC専用化等のロードマップについて (2020年12月17日発表)

| 都市部(近畿圏)※1 | | 都市部において5年後概成 | | | | | 地方部を含めて10年後概成 | | | |
|----------------------|--------------------------------------|------------------|------------------|------------------|--|------------------|------------------|------------------|-----|---------------------|
| | 料金所数 (※2) | 2020年度 (R2年度) | 2021年度 (R3年度) | 2022年度 (R4年度) | 2023年度 (R5年度) | 2024年度 (R6年度) | 2025年度 (R7年度) | 2026年度 (R8年度) | ... | 2030年度頃 (R12年度頃) |
| NEXCO 西日本 | 94 | 導入準備 (※3) | | | 近畿圏 (京阪神地区及び京奈和道の内側) 数ヵ所で導入→順次拡大(7~8割程度) (70ヵ所程度) | | | 順次拡大→全線 | | |
| 地方部 | | 2020年度 (R2年度) | 2021年度 (R3年度) | 2022年度 (R4年度) | 2023年度 (R5年度) | 2024年度 (R6年度) | 2025年度 (R7年度) | 2026年度 (R8年度) | ... | 2030年度頃 (R12年度頃) |
| NEXCO 3社・ 本四高速 | N東:331 N中:179 N西:339 本四: 34 | 導入準備 (※3) | | | 数ヵ所で導入→運用状況や各地域の特性等を 考慮しつつ順次拡大 | | | | 全線 | |

※1 2025年4月に開催される予定の「大阪・関西万博」への影響も考慮し、適時変更の可能性
 ※2 2020年12月1日現在の既存料金所のうちETC専用運用されていない課金料金所数
 ※3 カメラ等の設置や関係機関との協議等
 ※4 導入後の運用状況、ETCの普及状況、関係機関との協議等により、適時変更の可能性

ETC専用化等の運用イメージ (2020年12月17日発表)



魅力あふれるSA・PAづくり

地域と連携した商品開発 地元と協力・連携しながら商品開発を行い、地域の魅力を発信

～産学官民連携～

当社と佐賀県小城市、福岡地域戦略推進協議会（FDC）は、高速道路を基点としたまちづくりを目的に、産学官民のまちづくりを推進しています。

地元企業さまや小城市民の皆さまとワークショップ（合計5回）を開催し、企画・開発を経て、全4商品が生まれました。

2020年9月に小城市内にて竹下製菓㈱「トラキチ君シェイク」を発売。長崎道金立SA（上下線）では同年9月にみつばや小城羊羹製造本舗「ogi cube」、10月には㈱友樹飲料の「小城市VR体験ラムネ」を発売し、ご好評をいただいています。

小城市を知ってもらうきっかけとなる新しいお土産を作ること、来店や情報発信を通じて関係人口・交流人口増を目指しています。

※他の1商品については、発売開始時に公表します。



～高校生とのコラボ企画～

当社グループでは、地域の魅力発掘と、積極的な情報発信で地域との共生を目指し、地元の高校生との商品開発を継続して行っています。

「働くドライバーの皆さまに元気になっていただくメニュー」企画として、兵庫県立有馬高等学校の生徒の皆さまに考案を依頼し、全34作品の中から最優秀賞を選出しました。生徒が栽培した野菜を使い、2020年11月から2021年3月末まで山陽自動車道 淡河PA（上り線）で販売しました。

また、福岡県立朝倉東高等学校では、当社グループとのコラボ企画第2弾（第1弾：2019年販売済）として、地元の食材を使用したオリジナル商品3品を開発し、2020年12月から大分自動車道 山田SA（下り線）で販売しました。



兵庫県立有馬高等学校×NEXCO西日本グループ 高校生考案メニュー表彰式



商品を考案した福岡県立朝倉東高等学校総合ビジネス科の皆さま

店舗リニューアル SA・PAでは新たな価値・サービスの提供に挑戦しています

当社グループでは、地域の特色を生かした「ここにしかない出会い」を演出し、より楽しくより快適にご利用いただけるようSA・PAのリニューアルに取り組んでいます。

2021年度には、関門自動車道（関門橋）めかりPA・壇之浦PAの店舗建替、山陽自動車道 吉備SA（下り線）の全面改装など9カ所のリニューアルオープンを予定しております。



関門自動車道 壇之浦PA



山陽自動車道 吉備SA（下り線）

より移動しやすい環境づくり モバイルバッテリー貸出サービス

お客さまがより移動しやすい環境づくりを目指し、外出時におけるスマートフォン等の充電需要に応えるため、2021年4月に西日本高速道路初のサービスとして、モバイルバッテリーシェアサービス「ChargeSPOT」をインフォメーションカウンターが設置されているSA・PA全68カ所に導入しました。高速道路内外の全国26,000カ所設置の「ChargeSPOT」バッテリースタンドであれば、どこでも貸出・返却いただけます。



導入機器イメージ

モバイルバッテリー
（30分165円～）

安心・快適な「お手洗い」 お手洗いのリニューアル

当社では、『4C+1E』（Clear（明るさ）・Clean（清潔）・Comfortable（快適）・Charming（魅力的）+Ecology（環境への負荷軽減））をコンセプトに、お客さまに安心・快適にご利用いただけるお手洗いを目指して施

設の改修に取り組んでいます。

2020年度は、名神高速道路 吹田SA（上下線）でお手洗いの改修工事が完了し、リニューアルオープンしました。



吹田SA（下り線）男子トイレ



吹田SA（下り線）女子トイレ



社会

社会基盤である高速道路の機能強化と保全

高速道路ネットワークの利便性の向上 スマートICの整備

高速道路の利便性を向上させるため、スマートIC※の整備を進めています。ETC車載器搭載車両のみが利用できるスマートICでは、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路がさらに利用しやすくなります。

当社では、2004年12月に初めてスマートICが開通し、現在は36カ所のスマートICが開通、11カ所で新たなスマートICの事業を進めています。

※ETC車載器を搭載した車両限定で利用できるICで、対象車種・営業時間が限定されている場合があります。

事業中スマートIC（11カ所） 2021年3月末現在

| 道路名 | 名称 |
|---------|--------------|
| 新名神高速道路 | ①新名神大津スマートIC |
| | ②城陽スマートIC |
| | ③三木スマートIC |
| 山陽自動車道 | ④篠坂PAスマートIC |
| | ⑤八本松スマートIC |
| | ⑥加茂BSスマートIC |
| 松江自動車道 | ⑦阿波スマートIC |
| 徳島自動車道 | ⑧観音寺スマートIC |
| 高松自動車道 | ⑨東温スマートIC |
| 松山自動車道 | ⑩味坂スマートIC |
| 九州自動車道 | ⑪新富スマートIC |

（事業中スマートICの名称は仮称）



腐食劣化と決別した非鉄製橋梁 超高耐久橋梁(Dura-Bridge®)を採用した本線橋の完成

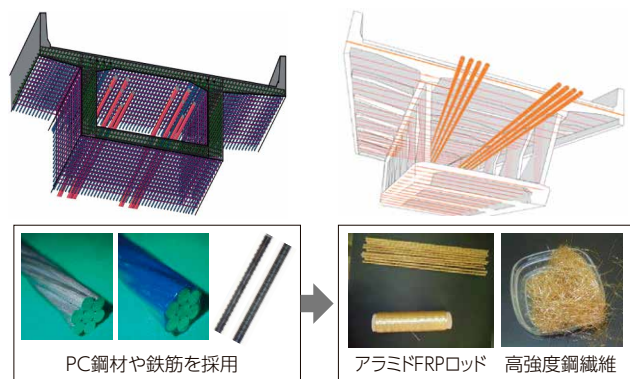
2010年より、三井住友建設㈱と当社は、非鉄製材料を用いた超高耐久橋梁(Dura-Bridge®)の共同研究を進めてきました。今回、2021年3月に4車線化工事が完成した徳島自動車道 土成IC～脇町IC間の「別荘谷橋」に新設の高速道路本線橋として初めて本技術を採用した橋梁が完成しました。

本技術は、鋼材腐食によるコンクリート剥落などによる第三者被害や、耐久性の飛躍的な向上、維持管理費用の低減が期待されます。

本工事で得られた技術的知見をもとに、今後さらなる研究や展開を進めていきます。



徳島自動車道 別荘谷橋の完成状況



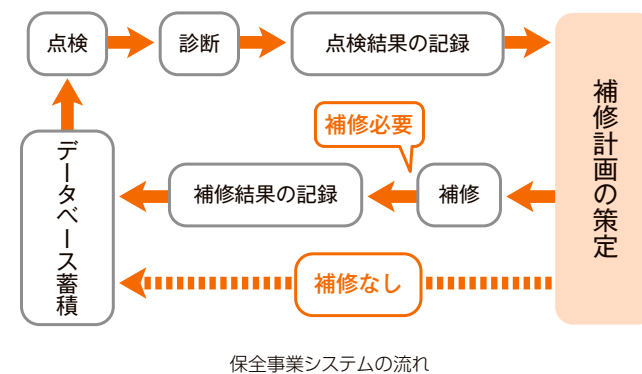
※アラミドFRPロッドとは、PC鋼材の代替えとなる引張力に強い繊維を束ねた棒状の材料をいいます。

通常構造と超高耐久橋梁(Dura-Bridge®)の比較

高速道路インフラの健全性の確保 保全事業システムの効率化・高度化を進めています

老朽化が進む高速道路を将来にわたって健全な状態に保つためには、構造物の状態をより正確にかつ迅速に把握・診断し、いつどのような対策を実施するか、または監視を行っていくのかなど適切な維持補修計画を策定することが重要となります。

当社では一連の業務手順やルールを明確にして、そのサイクルが途絶えることなく継続される保全事業システムの推進に努めています。



重量超過等の違反車両の取り締まりを徹底します

重量超過等の違反車両は、道路の劣化を進行させる要因となっていることから、IC入り口や本線料金所を中心に、指導・取り締まりを行っています。また、特に常習的・悪質な違反者に対しては警察への告発を行っています。

2020年度は、近畿で初めて国・大阪府・兵庫県、道路会社による8カ所一斉の取り締まりを実施し、重量超過等の法令違反車両への取り締まり強化に取り組みました。

災害対応力の強化

危機管理能力の向上 様々なリスクを想定し、実働訓練や体制見直しなどを行っています

当社グループ会社では、2020年9月に危機管理能力向上のため、総合防災訓練や応急復旧訓練を実施しました。

総合防災訓練では、過去の災害対応を踏まえた行動計画や緊急時の体制を再現して実践的な訓練を行い、マニュアルなどの有効性や各組織の連携確認などを行いました。

また、応急復旧訓練では、被災した高速道路の機能を早期に回復するため、路面段差通過訓練やトンネル照明灯具撤去・取付訓練など、実際の被災を想定した復旧作業訓練を実施しました。

また、膨大な高速道路資産を確実に点検し正確に健全性を把握するため、高解像度カメラ、赤外線カメラなどの点検支援技術の活用やタブレット端末を使った点検の記録、AIによる診断の支援など、点検の効率化・高度化の推進に取り組んでいます。



高解像度カメラ(Auto CIMA)

タブレットでの点検記録

その他にも、ジェットファンなどの道路付属設備の更新とともに頭上設備の軽量化を進めています。



軽量型ジェットファン

2020年度は、31台のジェットファンについて軽量型へ取り替えを実施しました。



取り締まりの様子



本社総合防災訓練での本部会議の様子



Eトレーラー設置・段差通過訓練

社会

SA・PAの機能強化

物流事業者支援 駐車場の拡充やコロナ禍でのシャワーステーションの営業継続

当社では、高速道路の休憩施設において顕在化している駐車エリアの混雑に対し、駐車マスの拡充を進めています。

特に、長時間駐車等による深夜帯を中心に大型車の駐車マスが不足し混雑が発生していることから、直近3年で約800台分の大型車の駐車マスを拡充し、休憩施設の機能向上に取り組んでいます。

また、深刻なドライバー不足の進行に対し、物流事業者のニーズ等を踏まえダブル連結トラックの導入が進められていることから、ダブル連結トラックに対応した

駐車マスの整備を進めています。

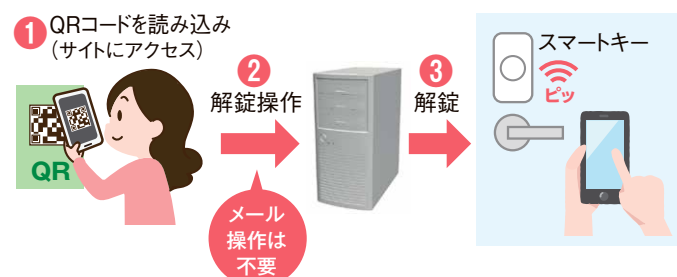
その他、疲労回復とくつろぎの提供として、一部のSA・PAにシャワーステーションを整備しています。コロナ禍では、物流に支障を生じさせないため、感染予防対策を講じることでシャワーステーションの営業を継続しました。また、さらなる利便性の向上や接触機会の低減として、スマートフォンを利用したスマートキー（電子鍵）による解錠・施錠システムを山陽自動車道瀬戸PA（上り線）女性用シャワーステーションに導入しました。



ダブル連結トラック駐車マス



シャワーステーション



シャワーステーションに導入したスマートキーの使用イメージ

保有している技術・ノウハウによる海外事業への貢献

海外への事業展開 グループの強みを生かし、海外において事業を展開しています

当社グループは、長年にわたる高速道路の建設・運営管理の経験によって、海外でも展開できる技術やノウハウを保有しています。

インドネシアでは、現地駐在員事務所とともに、高速道路PPP事業に参画しています。また技術アドバイザーを現地高速道路運営会社へ派遣し、有料道路の建設に貢献しました。

また、アメリカでは、NEXCO-West USA, Inc. が非破壊検査技術を用いた点検業務を受注しており、2020年度はニュージャージー州の鉄道駅舎点検等を実施し、高評価を受けました。

これらの事業活動を通じて日本のインフラ技術の輸出促進に貢献するとともに、その経験を日本国内の道路事業にフィードバックすることを目指しています。



開通した有料道路（インドネシア マカッサル）



鉄道駅舎点検の様子（アメリカ ニュージャージー州）

高速道路を通じた地域連携

高速道路を通じた地域活性化 西日本エリアの観光振興に取り組んでいます

新型コロナウイルス感染症により影響を受けている西日本エリアの観光を応援するため、2020年9月からETC限定で西日本の各エリアの高速道路が「定額乗り放題」となる大変おトクな「西日本観光周遊ドライブパス」を発売しました。

また、観光業向け直販予約特化型ウェブサイトとの連携により、宿泊施設とセットの申し込みで、ドライブ

パスもGo To トラベル事業の対象となる取り組みを実施しました。

※新型コロナウイルス感染症の拡大による緊急事態宣言等の発令により、2021年1月以降、一部のドライブパスの新規申し込みの受付を停止しました。



ドライブパスの申込専用サイト「みち旅」
https://www.michitabi.com/



自治体や関連団体と連携した観光振興 カードラリーで西日本各地へGO!

各府県が選ぶ「ごじまん」の観光地やサービスエリアに設置したカードを集めて応募すると、抽選でご当地産品等のプレゼントがもらえる「お国じまんカードラリー」。新型コロナウイルス感染症の影響により開始時期が延期になりましたが、まずは地元スポットをめぐる“安全・安心な地元再発見の旅を”を合言葉に実施しました。



GO! JIMANカード



2020年度は、スマートフォンから獲得できるQRコードスタンプを集めることで、簡単に応募できるようになりました。かわいいデザインが人気のGO! JIMANカードも引き続き当社の高速道路がある24府県（全151カ所）のごじまんスポットで配布しました。



グループ社員

人材の育成

人材育成の考え方 実践力を備えた高速道路事業のプロフェッショナルの育成

グループ社員一人一人の成長を支援します

当社グループでは、実際の業務におけるOJTや階層別・専門分野別の幅広い研修を通じて、知識・能力を高め、社員の自律的な成長を支援するとともに、グループ会社間における人材交流も実施しながら、より実践力を備えた人材の育成に努めています。

専門技術者の育成に取り組んでいます

技術力向上に向けた研修等にオンライン講座やバーチャルリアリティ等の新しいツールを取り入れた教育環境の充実により、多様化・複雑化する技術にも対応した専門技術者育成に取り組んでいます。

また、劣化損傷した実橋梁などの道路本体構造物の供試体を設置し、損傷要因の体系的理解の習得や点検から診断までを実体験する「体験型研修」を行える場として、茨木技術研修センター（I-TR）^{アイトレ}を開設しています。



専門研修の様子（席の間隔を空けるなど感染症対策を実施）



熊本地震被災部材を使った研修の様子

ダイバーシティ推進

違いを尊重し、個々が活躍し、進化し続けるチームへ 全社員が“仕事も生活も”充実できる環境を整備しています

当社では、社員一人一人の“違い”を尊重し、個人が持つ力を100%発揮できる組織づくりに取り組んでいます。

特に、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方が選択できるよう、時差出勤制度やテレワーク制度を導入しているほか、育児・介護と仕事の両立支援制度等の整備を行い、社員の多様な働き方と、自律的なキャリア形成を支援しています。

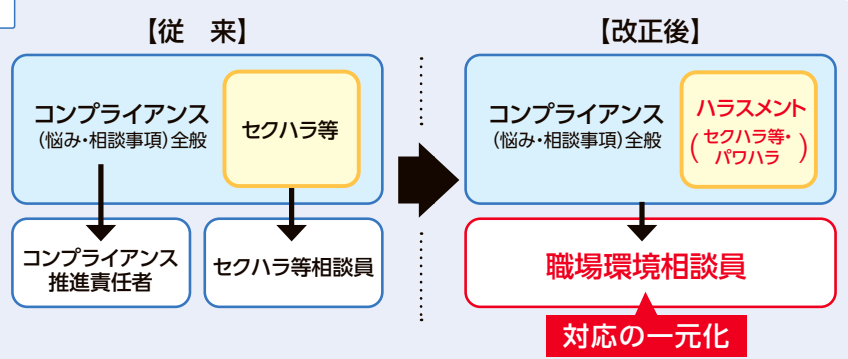
ライフイベントと仕事の両立支援のための会社独自の制度等

| | |
|-----------|--|
| 両立支援面談制度 | 妊娠時・休暇前・復帰前後における、直属の上司によるきめ細かな面談の実施を定めた制度 |
| 転勤特例制度 | 出産・育児・介護に際し、本人の申請により、一定期間勤務地を限定することができる制度 |
| ジョブリターン制度 | 結婚・育児・介護等を理由に退職した社員が、希望により、一定の条件のもと復帰できる制度 |

育児介護休業法等に基づく諸制度のほか、社員の育児・介護と仕事の両立を支援する会社独自の様々な制度等を整備しています。

TOPICS 職場における相談体制

2020年6月1日の改正労働施策総合推進法の施行にあわせ、従来のセクハラ等相談員をハラスメント全般の相談を受け付ける職場環境相談員に改めるとともに、職場環境相談員をコンプライアンス推進責任者が兼ねることにより、職場における相談体制の一元化と体制の充実を図りました。



グループ会社の業務改善の取り組み

業務研究発表会の開催 グループの技術力向上や業務改善に取り組んでいます

当社グループ専門技術者の育成と技術力向上、業務改善の促進を目的としたNEXCO西日本グループ業務研究発表会を開催しています。

発表された内容については、ルール化やマニュアルに取り込む等フォローアップを行い、グループ一体となって技術力向上や業務改善に取り組んでいます。

| | |
|------------------|----------------------------------|
| 【技術研究部門】 最優秀賞 | 「PC造トールゲート建替標準図」の選定について |
| 【業務改善部門】 最優秀賞 | ガードレール補修を効率化する新たな工具（ナットブレーカー）の開発 |



ウェブ会議システムによるリモート発表の様子

グループ会社の連携による技術開発の推進

構造物点検の効率化・高度化 高解像度カメラを用いた画像撮影システム（Auto CIMA）と無人航空機（UAV）の展開

Auto CIMAは、地上から高解像度のデジタルカメラで橋梁下面や橋脚等を撮影し、撮影画像からひび割れを自動で検出、図化する技術であり、近接目視による点検と同等の判定又は評価に必要な情報が得ることができる技術として活用しています。

さらに今後は、地上から撮影困難な部位・部材等について、無人航空機（UAV※）を用いた点検を展開し、点検作業の効率化・高度化を進めてまいります。

※Unmanned aerial vehicle



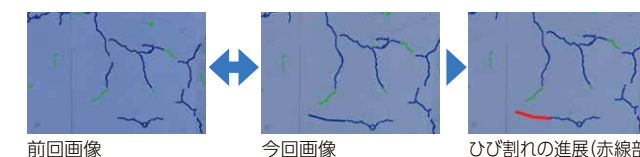
Auto CIMAを使った点検の様子



UAVによる撮影の様子

特 徴

- ・電動雲台付きのデジタルカメラで自動撮影
- ・超高精細な展開画像を自動作成



- ・0.2mm以上のひび割れを自動検出
- ・変状の経年変化を定量的に把握

メンテナンス工事の効率化 ガードレール補修を効率化する新たな工具（ナットブレーカー）の開発

ガードレール補修作業では、事故復旧や更新などで、迅速かつ安全な作業が求められますが、ナットの錆び付きが原因で思うように作業が進まないことがあります。この課題を解決するため、企業さまと共同開発により、錆び付いたナットを切断する工具「充電式電動油圧ナットブレーカー」を開発しました。

これにより、錆び付いたナットの切断作業に約3分必要だったところが約10秒に短縮され、大幅な作業効率化が図られました。



充電式電動油圧ナットブレーカー（西日本高速道路メンテナンス中国（株）で販売中）

環境経営の推進

環境マネジメントの推進 「環境基本計画」を策定して活動を推進しています

当社グループは2008年に「環境方針」を制定し、2011年からは5ヵ年の中期計画として「環境基本計画」を策定して、環境保全に取り組んでいます。

環境基本計画は、環境方針の柱である「低炭素社会の実現」「循環型社会の形成」「自然と共生する社会の推進」の3テーマで構成し、環境管理会議において、毎年度、計画達成に向けた具体目標（アクションプラン）を立て、実績を評価しています。



新名神高速道路沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます

環境方針

西日本高速道路株式会社は、事業活動が環境に及ぼす影響を真摯に捉え、高速道路事業者としてまた社会の一員として、社員の一人ひとりが、環境の保全・改善に積極的に取り組み、持続可能な社会の形成をめざします。

取り組みの実施にあたっては、環境側面に関する法規制等を遵守し、環境目的・目標を定めるとともに、それらを定期的に見直すことで継続的に改善します。
(2008年制定、2011年一部改定)

低炭素社会の実現に取り組めます

未来を担う世代が生活の豊かさを実感できるよう、道路空間を活用した省エネルギー、創エネルギー及び緑化の推進に取り組めます。

循環型社会の形成に取り組めます

天然資源の消費を抑制し、環境への負荷を低減するため、廃棄物等の発生抑制（リデュース）、循環資源の再使用（リユース）及び再生利用（リサイクル）に取り組めます。

自然と共生する社会の推進に取り組めます

人と生きものが豊かに暮らせる社会をめざし、自然環境や人々の生活環境の保全と創出に取り組めます。



名神高速道路 草津PAの急速充電システム



ほかの建設工事等で発生した土砂を受け入れ、利用しています



地域性苗木を用いた盛土のり面の樹林化

環境におけるSDGsへの貢献

環境基本計画に則した取り組みを通じて、SDGsに貢献することを目指しています。

| 環境関連のゴール | | 環境関連ターゲット →NEXCOの活動 | 環境関連のゴール | | 環境関連ターゲット →NEXCOの活動 |
|--------------------------|--|---|-------------------|--|--|
| 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに | 全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的エネルギーを利用できるようにしよう | 再生可能エネルギーの導入 →太陽光発電導入 | 12 つくる責任 つかう責任 | 持続可能な方法で生産し、消費する取り組みを進めていこう | リサイクル・廃棄物抑制 →廃棄物の3R(廃棄物減量、アスファルト再資源化) |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう | 災害に強いインフラを作り、持続可能な形で産業を発展させイノベーションを推進していこう | 温室ガス抑制(CO ₂ 排出抑制・省エネ) →電気使用量削減(オフィス・道路) | 13 気候変動に具体的な対策を | 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう | 温室ガス抑制(CO ₂ 排出抑制・省エネ) →電気使用量削減、盛土のり面樹林化 |
| 11 住み続けられるまちづくりを | 安全で災害に強く、持続可能な都市及び居住環境を実現しよう | 大気・廃棄物の削減 →廃棄物削減・再資源化 | 15 陸の豊かさも守ろう | 陸上の生態系や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう | 気候変動対策・温室ガス抑制・生物多様性・森林経営 →エコロード推進(動物侵入柵設置、盛土のり面樹林化、地域性苗木導入) |

中期計画「環境基本計画2020」に基づくアクションプラン2020の取り組み

SDGsに貢献する具体的な取り組みとして、2016年度から2020年度を対象に「環境基本計画2020」を策定、その計画に基づく年度目標「環境アクションプラン2020」を設定し、グループ一体となって、環境保全・改善を行いました。

※CSRの重要課題(マテリアリティ)として設定されている項目についてはP43～P44に記載。

| 実行目標計画の取り組み項目 | | | 活 動 内 容 | 指 標 | 単位 | アクションプラン2020 | |
|---------------|---------------------|---------------------------------|------------------------------------|-----------------------|-------|--|---|
| | | | | | | 目 標 | 実 績 |
| 低炭素社会の実現 | 省エネルギーの推進 | 電気使用量の削減 | オフィス活動に要する電気使用量を削減する | 電気使用量 | kWh/㎡ | 2015年度実績より5%削減する (2015年度 153kWh/㎡) | 1.4%増加 (155.1kWh/㎡) |
| | | ガス使用量の削減 | オフィス活動に要するガス使用量を抑制する | ガス使用量 (都市ガス+LPGガス) | ㎡/㎡ | 2015年度実績より抑制する (2015年度 0.4㎡/㎡) | 15%削減 (0.34㎡/㎡) |
| | 二酸化炭素吸収源対策 | 道路緑化等によるCO ₂ の固定 | 盛土のり面等の樹林化整備を推進する | 整備面積 | ha | 30ha | 34ha |
| | 技術開発 | 新技術・新材料の開発 | 再生アスファルト混合物の適用性を検討する | — | — | 回転式舗装試験機による耐久性評価試験及び実機プラントによる試験練りを実施し、耐久性に優れる再生アスファルト混合物の配合設計手法を検討する | 回転式舗装試験機による耐久性評価試験及び室内試験により、再生アスファルト混合物の配合設計の手引きを作成した |
| 循環型社会の形成 | 環境に配慮した製品・資材等の調達の推進 | 廃棄物の3R (リデュース、リユース、リサイクルの推進) | 一般廃棄物 (資源となるものを除く)の排出量を減量する | — | kg | 一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努める | 一般廃棄物の排出量を抑制し、分別回収に努めた |
| | | | 休憩施設での発生ゴミの再資源化を推進する (再資源可能なもの) | 再資源化率 | % | 100%をめざす | 100% |
| | | | 建設発生木材の再資源化を推進する | 再資源化率 | % | 95%をめざす | 96.9% |
| | | | 建設汚泥の再資源化を推進する | 再資源化率 | % | 90%をめざす | 99.6% |
| 自然と共生する社会の推進 | 自然環境の保全 | エコロードの推進 | 動物侵入防止対策を推進する(建設) | 設置延長 | km | 0.6km | 0.6km |
| | | | 地域性苗木を設置する | 設置本数 | 本 | — | — |
| | 生活環境の保全 | 道路交通騒音対策 | 高機能舗装の敷設を推進する | 敷設延長 | 車線・km | 80車線・km | 119車線・km |

中期計画「環境基本計画2025」の策定

政府方針による「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、これまでの環境保全に対する取り組みに加えて、「脱炭素社会の実現」に取り組んでまいります。

社会貢献

社会貢献活動

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、事業以外においては、グループのノウハウを生かすべく事業活動に親和性の高い分野で活動することを基本としています。またボランティアや地域連携イベントへの参画については、社員本人やグループ会社の主体性を尊重しており、「安全」「環境」「就労支援」「地域貢献」の各分野で取り組んでいます。

「安全」への取り組み

交通安全の啓発活動 安全運転管理者等講習会に講師として参加

当社グループでは、安全運転管理者を対象に開催される安全運転管理者等講習会に講師として参加し、高速道路の交通事故等の防止について講演を行っています。

鳥取県で開催された講習会では、パトロール隊員が高速道路上で行う旗振り合図の意味について、実演による説明や高速道路の特性、逆走車に遭遇した際の対応、出発前点検等の重要性、事故や故障でやむを得ず高速道路で止まってしまった時の措置などについて講演を行いました。

この取り組みは毎年行っているものですが、これからも地元とのご縁を大切に、地域に根ざした活動に取り組んでまいります。



講習会での旗振り合図の実演の様子



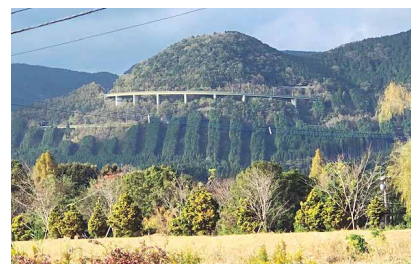
講習会での講演の様子

「環境」への取り組み

「つなぎの森」活動 西日本各地で森林再生に取り組んでいます

2008年度から西日本各地の地方自治体と協定を締結し、森林保全に取り組んでいます。2020年度は新たに宮崎県えびの市でヤマザクラ約3千本の植栽・

約3haに係る協定を締結し、2021年以降も植栽活動を実施していきます。今後も引き続き、自治体などと協力し、森林保全に取り組んでいきます。



えびの市の植栽予定地



つなぎの森四国 大豊町の2019年度植栽活動の様子と参加者



「就労支援」への取り組み

「障がい者支援施設」への業務委託 障がい者の方への就労支援に取り組んでいます

当社グループでは、障がいのある方の活躍を支援することを目的に、軽作業等を障がい者支援施設に依頼しています。

高架下の草刈作業では、飛散対策の板(コンパネ)を持つての作業補助や刈り終えた草の回収などを実施いただいています。

また、ゆとりすとパークおおとよでは、花木育成や植え付け作業を実施いただき、季節に応じた色とりどりの花であふれる花壇が維持され、来園者の方からご好評をいただいています。

支援施設の方からは、「屋外での維持作業等を通じて、自信創出につながり、就労へのイメージづくりができる良い機会となっています。」とのお言葉をいただいています。今後も、地域の交流と障がいのある方の就労支援の貢献に取り組んでいきます。



高架下での草刈作業飛散対策の様子



プランターへの花木植え付け作業の様子

「地域貢献」への取り組み

マスクの寄付や災害募金活動 社会情勢に応じた社会貢献活動に取り組んでいます

当社グループでは、新型コロナウイルス感染症の流行により不足していたマスクを、福岡市が取り組まれている「WITH THE KYUSHU」や、近隣医療機関に約1万枚寄付する活動を行いました。

また、「令和2年7月豪雨」では、被災された熊本県へ当社グループとして5,000千円、グループ社員からの義援金募金として7,755千円を合わせた、12,755千円を寄付しました。



熊本県知事へ目録を贈呈

地域の清掃美化活動 様々な地域で清掃や美化活動を実施

当社グループでは、地域社会への参加の一環として、清掃美化活動に参加しています。

中国自動車道 吹田JCT周辺では、大阪府と吹田市が実施している道路の清掃や緑化などの美化活動である「アドプト・ロード・吹田」に参加しています。

その他にも、西日本各地において清掃美化活動を実施しており、2020年度は約2,000回、約9,600人が参加しました。

これからも地域を愛し、地域とともに生きる企業グループを目指していきます。



関西地域での活動の様子



四国地域での活動の様子



中国地域での活動の様子



九州地域での活動の様子

連結損益計算書

(単位：億円)

| 区分 | | 2020年度 | 2019年度 | 増減 |
|--------------------------------------|--|--------|--------|---------|
| 営業収益 | 高速道路事業 | 8,991 | 10,409 | ▲ 1,417 |
| | 料金収入 | 6,610 | 7,982 | ▲ 1,371 |
| | 道路資産完成高 | 2,351 | 2,396 | ▲ 44 |
| | その他 | 29 | 30 | ▲ 1 |
| | 関連事業 | 318 | 461 | ▲ 143 |
| | SA・PA事業 | 198 | 330 | ▲ 132 |
| | その他の事業 | 119 | 130 | ▲ 10 |
| 計 | | 9,309 | 10,870 | ▲ 1,560 |
| 営業費用 | 高速道路事業 | 9,029 | 10,383 | ▲ 1,354 |
| | 道路資産賃借料 | 4,457 | 5,708 | ▲ 1,251 |
| | 道路資産完成原価 | 2,351 | 2,396 | ▲ 44 |
| | 管理費用 | 2,220 | 2,278 | ▲ 58 |
| | 関連事業 | 359 | 419 | ▲ 59 |
| | SA・PA事業 | 248 | 298 | ▲ 50 |
| | その他の事業 | 111 | 120 | ▲ 9 |
| 計 | | 9,388 | 10,802 | ▲ 1,414 |
| 営業利益 (損失▲) | 高速道路事業 | ▲ 37 | 25 | ▲ 62 |
| | 跨道橋耐震対策事業 を除く高速道路事業営業利益 ^{※1} | ▲ 26 | 62 | ▲ 89 |
| | 関連事業 | ▲ 41 | 41 | ▲ 83 |
| | (うちSA・PA事業) | ▲ 49 | 32 | ▲ 82 |
| | 計 | ▲ 78 | 67 | ▲ 146 |
| 経常利益(損失▲) | | ▲ 32 | 96 | ▲ 129 |
| 当期純利益(損失▲) ^{※2} | | ▲ 65 | 65 | ▲ 130 |
| 跨道橋耐震対策事業を除く当期純利益(損失▲) ^{※3} | | ▲ 55 | 102 | ▲ 157 |

※1 高速道路の安全な交通を確保するため、自治体が管理する高速道路を跨ぐ道路(跨道橋)に対する耐震対策事業であり、高速道路事業の利益剰余金より充当されることから、参考として当該事業を除いた高速道路事業営業利益を記載しています。
※2 「当期純利益(損失▲)」には、親会社株主に帰属する当期純利益(損失▲)を記載しています。
※3 前期比較のため、「跨道橋耐震対策事業」を除いた当期純利益(損失▲)を記載しています。
※4 億円未満は切り捨てで表示しています。

主要な経営指標等の推移

| 年度 | | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | 2019年度 | 2020年度 |
|---|------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 営業収益 | (億円) | 9,352 | 16,213 | 10,783 | 10,870 | 9,309 |
| 経常利益又は経常損失(▲) | (億円) | 114 | 73 | 129 | 96 | ▲ 32 |
| 親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(▲) | (億円) | 159 | 230 | 98 | 65 | ▲ 65 |
| 純資産額 | (億円) | 1,798 | 1,990 | 2,124 | 2,205 | 2,170 |
| 総資産額 | (億円) | 14,385 | 11,706 | 13,950 | 13,804 | 16,438 |
| 1株当たり純資産額 | (円) | 1,891.16 | 2,093.11 | 2,234.61 | 2,319.51 | 2,282.47 |
| 1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額(▲) | (円) | 167.91 | 242.37 | 103.32 | 68.76 | ▲ 69.12 |
| 自己資本比率 | (%) | 12.5 | 17.0 | 15.2 | 16.0 | 13.2 |
| 自己資本利益率 | (%) | 9.5 | 12.2 | 4.8 | 3.0 | — |

(注) 1. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第 28 号 平成 30 年 2 月 16 日)等を2018年度の期首から適用しており、2017年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっています。
2. 2020年度の自己資本利益率については、親会社株主に帰属する当期純損失が計上されているため、記載していません。
※ 億円未満は切り捨てで表示しています。

高速道路事業トピックス

- 2020年度の当社管内の高速道路の通行台数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対前期14.2%減の258万台／日となり、料金収入は、会社発足以来最大の落ち込みとなる対前期1,371億円(17.2%)減の6,610億円、その他収入は29億円となりました。この結果、道路資産完成高を除く高速道路事業の営業収益は対前期1,372億円減の6,639億円となりました。
- 営業費用のうち、高速道路機構に対する道路資産賃借料は、料金収入の実績が計画料金収入の一定割合を超えて変動した場合に増減することとなり、当期は料金収入の減少により、協定に基づく年間計画額に対して693億円減額となりました。この結果、道路資産賃借料は、対前期1,251億円減の4,457億円となりました。
管理費用は、安全・安心に関する施策を着実に執行したうえで、交通量の減少を踏まえて構造物補修等の実施時期の見直しを行ったこと等により、対前期58億円減の2,220億円となりました。
- 以上のことなどから、高速道路事業の営業利益は、対前期62億円減の▲37億円となりました。
なお、跨道橋耐震対策事業を除いた高速道路事業の営業利益は、対前期89億円減の▲26億円となります。
- 道路資産完成高は、舞鶴若狭自動車道(福知山IC～綾部IC)の4車線化の完成等がありましたが、第二阪奈道路の移管等があった前期からは44億円減の2,351億円となりました。
なお、道路建設にかかった経費と同額の債務を高速道路機構に引き渡すため、道路資産完成高は道路資産完成原価と同額となり、道路建設から利益や損失は発生しません。

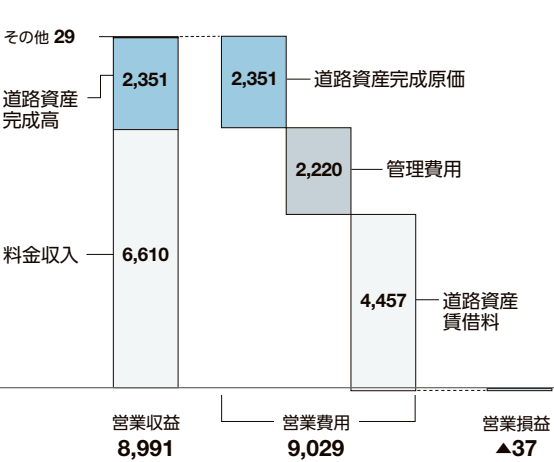
関連事業トピックス

- SA・PA事業の営業利益は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対前期82億円減の▲49億円、関連事業全体では対前期83億円減の▲41億円となり、会社発足以来初めての営業損失を計上しました。

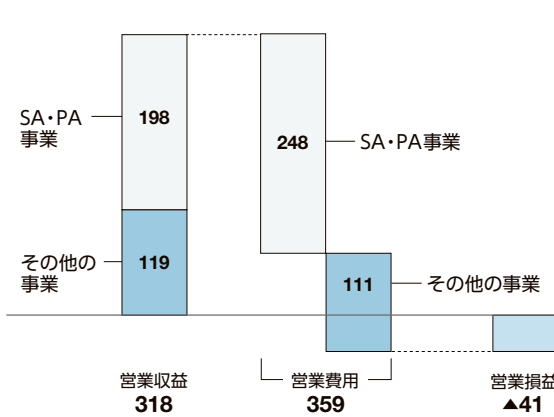
全事業の業績

- 当期純利益は、対前期130億円減の▲65億円となり、会社発足以来初めての当期純損失を計上しました。
- 跨道橋耐震対策事業を除いた当期純利益は、対前期157億円減の▲55億円となります。

高速道路事業の損益 (単位：億円)



関連事業の損益 (単位：億円)



※ 億円未満は切り捨てで表示しています。

NEXCO 西日本グループ 税務ポリシー

NEXCO西日本グループは、グループ理念や行動憲章に基づき適正な納税をおこないます。また、社会基盤を支える高速道路会社として良好な財務体質を維持するとともに、社会貢献の一つとして社会的責任を果たします。われわれは、この税務ポリシーに基づき、公正性や透明性を確保し、適切な会計・税務管理を実施していきます。

1. 法令遵守

NEXCO西日本グループは、法人税法や消費税法等を常に遵守するとともに税法改正を適時適切に把握して適正な納税義務を果たします。

2. 税務コーポレートガバナンス

NEXCO西日本グループは、社内外の講習等を通じて社員の税務知識向上を目指すとともに、社内規程等に基づく適正な実務遂行により、税務コンプライアンスの充実を図ります。また、法令等に基づかない税務上の判断や節税、脱税はおこないません。

3. 税務当局との関係

NEXCO西日本グループは、税務リスクが懸念される取引について、顧問税理士等を交えた十分な検討をおこなうことでリスク回避に努め、税務当局との良好な関係を維持します。
また、税務当局からの情報開示要請等には適切に対応するとともに、税務的判断に見解の相違が生じた場合は真摯な対応で解消に努めます。

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

当社グループでは、「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています。

また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標 (SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することを目指しています。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals:SDGs)


















2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成するべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。



| 重要課題 | | ステークホルダー 参画の機会(参加者) | 重要である理由 | KPI(マネジメントアプローチ) | | KPI(マネジメントアプローチ) | | | | 関連ページ |
|---|-----------------------------|--|---|--|--------------------------------|--------------------|--------------------|-------------------------|---|--------------------|
| | | | | 管理のポイント・指標 | 目標 | 実績 | 次年度の目標 | 集計範囲 | 関連するSDGs | |
|  お客さま | 交通安全の 取り組み | ●お客さまセンター (高速道路利用者) ●SA・PAに設置した利用 者向け投書コーナー 「ハイウェイポスト」 (高速道路利用者) | 高速道路での交通事故は、死 傷事故など重大な事故につ ながります。 | 死傷事故率※1(自動車走行車両1億台kmあたりの 死傷事故件数) | 4.6件/億台km | 後日、ウェブサイトに掲載 | 後日、ウェブサイトに掲載 | NEXCO西日本事業エリア の全国路線網 |  | 21ページ |
| | | | | 車限令違反車両取締件数(高速道路上で実施した 車限令違反車両取締における措置命令件数) | — | 225件 | — | | 26ページ | |
| | | | | 逆走事案件数※1(交通事故または車両確保に至った 逆走事案の件数) | 60件 | 47件 | 44件 | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | | | | 人等の立入事案件数(歩行者、自転車、原動機付自 転車等が高速道路に立入り、保護した事案の件数) | 700件 | 886件 | 850件 | | — | |
| | 快適な高速道路 空間の提供 | ●SA・PAインフォメー ション(高速道路利用者) ●CS推進オピニオンリー ダー意見交換会 (外部有識者) ●現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社) ●包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体) | 高速道路の内滑な交通を24 時間365日確保することによ って、国民生活を豊かにし、 経済活動を支えることが、当 社の責務です。 | 顧客満足度(CS調査で把握する維持管理に関する お客さまの満足度(5段階評価)) | 3.7ポイント | 3.7ポイント | 3.7ポイント | NEXCO西日本事業エリア の全国路線網 |  | NEXCO西日本 ウェブサイト |
| | | | | 年間利用台数 | 1,014百万台 | 936百万台 | 1,079百万台 | | | — |
| | | | | 通行止め時間(営業延長(上下線別)あたりの雨、雪、 事故、工事等に伴う年平均通行止め時間) | 46時間 | 91時間 | 63時間 | | | NEXCO西日本 ウェブサイト |
| | | | | 本線渋滞損失時間※1(渋滞が発生することによる お客さまの年間損失時間) | 531万台・時 | 262万台・時 | 605万台・時 | | | 22ページ |
| | SA・PAのお客さま 満足施設への変革 | ●包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体) | 高速道路は基本的なインフラ であり、誰もが利用しやすい 施設であることが求められま す。 | 路上工事による交通規制時間※1(道路1kmあたりの 路上作業に伴う交通規制時間) | 122時間/km | 139時間/km | 127時間/km | NEXCO西日本 ウェブサイト |  | NEXCO西日本 ウェブサイト |
| | | | | ベビーコーナー設置箇所数 | — | 9カ所 (累計97カ所) | — | | | 19ページ |
| | | | | キャッシュレス決済率 | — | 22% | — | | | |
| | | | | | | | | | | |
|  社会 | 社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全 | ●事業説明会(地域住民) ●設計協議(地域住民) | 高速道路ネットワークは、国民 生活を豊かにし、経済活動を 支える、基礎的な社会資本で す。また、輸送コストの削減や 交通事故の減少にも貢献して います。 | 新規開通路線延長 | — | — | 16.1km | NEXCO西日本事業エリア |   | 15ページ |
| | | | | 4車線化完成路線延長 | 10.2km | 10.2km | 31.9km | | 17ページ | |
| | | | | 快適走行路面率 (快適に走行できる舗装路面の車線延長) | 98% | 97% | 98% | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | | | | 南海トラフ地震被害に備えての 資機材の新規備蓄箇所 | 4カ所 累計 245カ所 | 3カ所 累計 244カ所 | 4カ所 累計 248カ所 | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | 災害対応力の強化 | ●包括協定・災害協力協 定・連携協定(当社事業 エリアの各府県・政令 指定都市、陸上自衛隊) | 災害発生時、高速道路には、被 災地域の救急・復旧・復興の インフラとしての役割が求めら れています。 | 地域物産展実施エリア | — | 52カ所 | — | NEXCO西日本事業エリア |  | NEXCO西日本 ウェブサイト |
| | | | | 地元が販売・イベント等によりSA・PAを利用した日数 | のべ2,329日 | のべ3,015日 | のべ3,529日 | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | | | | ウェルカムゲート(一般道からSA・PAに立ち寄れる ゲート)新規設置数 | 1カ所 (累計76カ所) | 2カ所 (累計77カ所) | 1カ所 (累計78カ所) | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | | | | 地域振興や観光振興を目的とした企画割引等の販売件数 | 198千件 | 112千件 | 139千件 | | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | 高速道路を通じた 地域連携 | ●包括協定、連携協定 (各地域の地方公共団体) | 人口減少時代を迎え、沿線地 域の活性化への貢献が求め られています。 | 高速道路機構の債務削減 | 8ページの「高速道路機構の債務残高」を ご覧ください。 | | | (旧道路関係4公団) |  | 8ページ |
| | | | | 社長定例会見(毎月開催) | — | 12回 | — | NEXCO西日本 | 29ページ | |
| | | | | facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本 公式facebook登録者数の増) | 登録者数 30,000件 | 登録者数 28,900件 | — | NEXCO西日本 ウェブサイト | | |
| | | | | CSR報告書での企業活動報告 | 1回 | 1回 | 1回 | NEXCO西日本グループ | 50ページ | |
|  投資家・国民の皆さま | 透明性の高い経営と 着実な債務の返済 | ●事業評価監視委員会 (財界・学術界の外部 有識者) | 国民の財産である高速道路を管理する事業者として、透明性の高い経営が求められています。また、高速道路機構の債務返済を着実なものにしていくため、経営の効率化が求められています。 | 高速道路機構の債務削減 | 8ページの「高速道路機構の債務残高」を ご覧ください。 | | | (旧道路関係4公団) |  | 8ページ |
| | 積極的な情報公開 | ●事業説明会(機関投資家) ●個別投資家訪問(機関投資家) ●記者会見(マスメディア) ●アンケート調査(NEXCO西日本グループレポート読者) | ステークホルダーから理解・信頼・期待される企業となるために、積極的な情報公開とコミュニケーション活動が重要だと考えています。 | 社長定例会見(毎月開催) | — | 12回 | — | NEXCO西日本 | 29ページ | |
| | | | | facebookを活用した広報展開(NEXCO西日本公式facebook登録者数の増) | 登録者数 30,000件 | 登録者数 28,900件 | — | NEXCO西日本 | NEXCO西日本 ウェブサイト | |
| | | | | CSR報告書での企業活動報告 | 1回 | 1回 | 1回 | NEXCO西日本グループ | 50ページ | |

※1 集計期間：2020年1月1日～12月31日

CSRの重要課題(マテリアリティ)と取り組み状況

| 重要課題 | | ステークホルダー 参画の機会(参加者) | 重要である理由 | KPI(マネジメントアプローチ) | | KPI(マネジメントアプローチ) | | | | | 関連ページ |
|---|---|---|---|---|---|------------------------------|---|---------------------|--|---|-------|
| | | | | 管理のポイント・指標 | 目標 | 実績 | 次年度の目標 | 集計範囲 | 関連するSDGs | | |
|  | 公正な取引関係 | ● 入札監視委員会 (外部有識者) | 国民の財産である高速道路の建設・管理を担う会社として、公共調達に係る契約の透明性の確保が求められています。 | 入札監視委員会の実施回数 | — | 8回 (各支社2回) | — | NEXCO西日本 |  | 30ページ | |
| | SA・PAの テナント会社との 協働 | ● 現場責任者会議等 (SA・PAテナント会社) | お客さまの多様なニーズに応えるため、SA・PAのお取引先さまとの協働を重視しています。 | 安全・安心にかかる講習等 | — | 年1回 | — | 飲食物販テナント事業者 |  | — | |
| | | | | 誤給油防止訓練 | — | 年2回 | — | 元売テナント事業者等 | | — | |
|  | 「安全・安心、 信頼され成長する 企業グループ」を 担う人材の育成 | ● キャリア相談窓口 (NEXCO西日本社員) ● 経営懇談会、労使協議会 (NEXCO西日本労働組合員) ● 外部講師による研修 (グループ社員) | 安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続けるため、一人一人が仕事を通じて自律的に成長していける人材育成と、組織・会社の自己変革が重要だと考えています。 | 階層・職種別研修 | — | のべ 789回 | — | NEXCO西日本グループ |    | 31ページ | |
| | | | | 資格取得支援制度の利用者数 | — | 268人 | — | NEXCO西日本 | | — | |
| | | | | 女性管理職者比率 | — | 9.3% | — | NEXCO西日本グループ | | — | |
|  | 低炭素社会の実現 | ● 各種の対話の機会を通じた環境コミュニケーション(お客さま、地域住民、従業員、専門家) | 高速道路では、自動車から大量のCO ₂ が排出されるため、道路運営全体で、その排出量削減が求められています。 | 道路施設の維持管理に要する電気使用量 | 2017年度実績より3%以上削減する (2017年度 70.9千kWh/km) | 2.3%削減 | 2020年度実績より1.0%以上削減する (2020年度 72.2千kWh/km) | NEXCO西日本事業エリア |   | 34ページ | |
| | | | | ● 環境アクションプラン ● 省エネルギー活動 | 新設料金所等に太陽光発電を設置する | 10kW | 10kW | 20kW | | | 34ページ |
| | | | | 次世代車両用スタンド整備に向けた新エネルギー補充用技術を開発する | 電気自動車用急速充電設備を新たに2基増設する | 電気自動車用急速充電設備を2基整備完了 | 電気自動車用急速充電設備を新たに4基増設する | NEXCO西日本事業エリアのSA・PA | |  | 34ページ |
| | 循環型社会の形成 | | 高速道路の建設では、大量の建設副産物が発生するため、その削減が求められています。 | 事務用品における特定調達物品等の調達率 | 100% | 100% (規格等により適合商品がない場合を除く) | 100% | NEXCO西日本 |  | 34ページ | |
| | | | | ● 環境アクションプラン ● 環境物品等の調達の推進 | 植物系廃棄物(草刈り等)の再生資源化率 | 95%以上 | 95.9% | 95%以上 | | NEXCO西日本事業エリア | 34ページ |
| | | | | 建設発生土の再利用率 | 80%以上 | 83.4% | 80%以上 | 34ページ | | | |
| | | | | アスファルトコンクリート塊の再生資源化率 | 99%以上 | 100% | 99%以上 | 34ページ | | | |
| | | | | コンクリート塊の再生資源化率 | 99%以上 | 100% | 99%以上 | 34ページ | | | |
| | 自然と共生する 社会の推進 | ● 吉野川渡河部の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) ● 鶯殿ヨシ原の環境保全に関する検討会(外部有識者、地域住民) その他、必要に応じて外部委員会を設置 | 高速道路の建設では、沿道地域の自然環境に影響を及ぼすため、その影響の緩和が重要になります。また、沿道地域の生活環境を守るため、道路交通による騒音の低減が求められています。 | ● 環境アクションプラン ● エコロード(自然に優しい道路づくり)の推進 ● 周辺の生活環境への影響を減らす道路づくり | 動物侵入防止対策の設置・改良箇所 | 12カ所 | 10カ所 | 54km | NEXCO西日本事業エリア |   | 34ページ |
| | | | | 遮音壁の設置(設置延長) | — | — | 0.5km | 34ページ | | | |
| |  | 「安全」「環境」「地域貢献」の 取り組み | ● 高速道路交通警察隊(当社事業エリアの各府県) ● 高速道路安全協議会(当社事業エリアの各府県) ● 包括協定、連携協定(各地域の地方公共団体) | 社会インフラを管理する公共性の高い企業として、地域社会への貢献が求められています。 | 交通安全啓発活動 | — | のべ47回 | — | NEXCO西日本グループ |   | 35ページ |
| | | | | | 職場周辺や各地域での清掃活動 | — | のべ2,081回 9,611人 | — | | | 36ページ |
| つなぎの森活動 | | | | | — | — | — | NEXCO西日本管内 3カ所 | 35ページ | | |

NEXCO 西日本の事業エリア (24府県)

高速道路事業

営業中道路 3,534km

I C 数 IC 466カ所 うち、スマートIC 36カ所

利 用 台 数 258万台/日 (2020年度実績)

営 業 収 入 6,610億円 (2020年度実績)

建設中道路 新設区間71km

6車線化及び4車線化区間181km

SA・PA事業

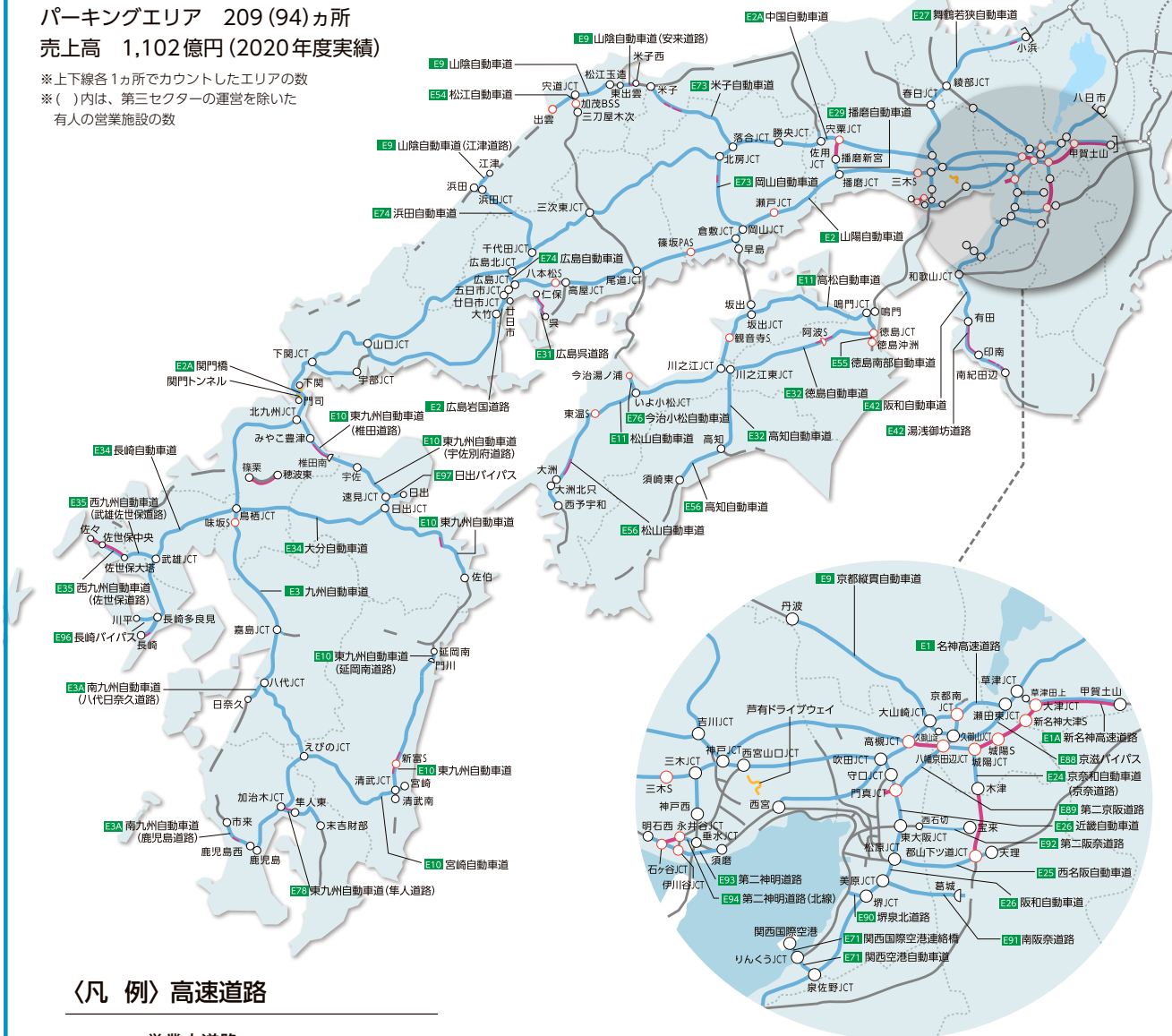
サービスエリア 100 (94)カ所

パーキングエリア 209 (94)カ所

売上高 1,102億円 (2020年度実績)

※上下線各1カ所でカウントしたエリアの数

※()内は、第三セクターの運営を除いた
有人の営業施設の数



〈凡 例〉高速道路

- 営業中道路
- 建設中道路※1
- NEXCO西日本が管理する
その他の道路
- 他の高速道路会社等が管理する道路

※1 事業中のインターチェンジ等の名称は仮称

標記上の略称

SA : サービスエリア
PA : パーキングエリア
JCT : ジャンクション
S : スマートインターチェンジ
BS : バスストップ



(2021年7月1日現在)

会社概要 (2021年7月現在)

商 号 西日本高速道路株式会社
(West Nippon Expressway Company Limited)

代 表 者 代表取締役社長 前川 秀和

本社所在地 大阪市北区堂島1丁目6番20号

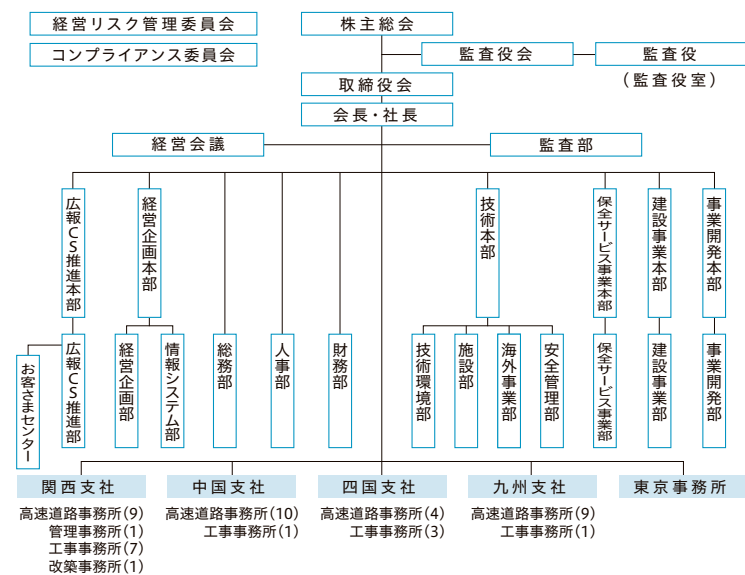
資 本 金 475億円

設立年月日 2005年10月1日

従業員数※ (単体) 2,709人 (連結) 16,309人

※ 2021年5月末現在

組織図 (NEXCO 西日本、2021年7月現在)



グループ会社 (2021年7月現在)

連結子会社 27社

■ 料金収受

西日本高速道路サービス関西株式会社

西日本高速道路サービス中国株式会社

西日本高速道路サービス四国株式会社

(※ 交通管理も実施)

西日本高速道路サービス九州株式会社

西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社

(※ 交通管理、点検・管理、保全作業も実施)

■ 交通管理

西日本高速道路パトロール関西株式会社

西日本高速道路パトロール中国株式会社

西日本高速道路パトロール九州株式会社

■ 点検・管理

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社

西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社

西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社

(※ 保全作業も実施)

西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社

西日本高速道路ファシリティーズ株式会社

(※ 保全作業も実施)

■ 保全作業

西日本高速道路メンテナンス関西株式会社

西日本高速道路メンテナンス中国株式会社

西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

■ 不動産関連業務及び人材派遣業務

西日本高速道路ビジネスサポート株式会社

■ SA・PAの運営・管理

西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社

西日本高速道路ロジスティックス株式会社

西日本高速道路リテール株式会社

■ 有料道路の運営・管理

芦有ドライブウェイ株式会社

■ 海外事業

NEXCO-West USA, Inc.

■ 橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・調査等事業

株式会社富士技建

NEXCO 西日本コンサルティング株式会社

NEXCO 西日本イノベーションズ株式会社

■ 維持管理システム・ITインフラ等業務

NEXCO 西日本情報テクノロジー株式会社

■ 広告事業

NEXCO 西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

■ SA・PAの運営・管理

沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

■ システムの開発・改良及び運用管理

株式会社NEXCO システムズ

■ 研究及び技術開発

株式会社高速道路総合技術研究所

■ 料金収受機械保守

ハイウェイ・トール・システム株式会社

■ 保険代理店業務

株式会社NEXCO 保険サービス

■ トラックターミナルの運営

九州高速道路ターミナル株式会社

■ 海外事業

日本高速道路インターナショナル株式会社

みち、ひと・・・未来へ。



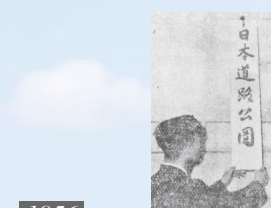
NEXCO西日本グループのあゆみ

NEXCO西日本は2005年に設立され15年が経ちました。

前身の日本道路公団を含めると60年もの歴史になり、

私たちは半世紀以上にわたって、24時間365日、我が国の大動脈として生活・経済活動に

欠かせない重要インフラである高速道路の機能・サービスを間断なく提供する使命を担ってまいりました。



1956
日本道路公団発足

1963
日本初の高速道路
名神高速道路
(栗東IC～尼崎IC間)開通



1965
名神高速道路
全線開通

1956—
1980

1983
中国自動車道
全線開通

1981—
1990

1991
ロゴマーク(CI)の導入



1992
高松自動車道・
松山自動車道・
高知自動車道が直結

1995
九州自動車道 全線開通

1991—
2000

1997
山陽自動車道 全線開通
岡山自動車道
(岡山総社IC～北房JCT)開通

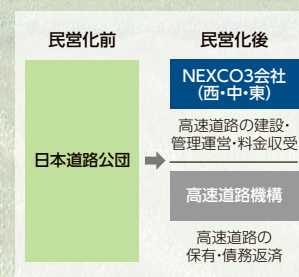


2001
ETCの運用開始

2001—
2005



2005 10月
日本道路公団の
分割・民営化により
西日本高速道路株式会社
設立



2006 4月
ブランドネーム、
ロゴマーク決定



2007 11月
阪和自動車道 全線開通

2008 2月
新名神高速道路
(亀山JCT～草津田上IC)開通



2006—
2010

2008 11月
ハイウェイ交通情報提供
「i Highway」サービス開始



2010 3月
第二京阪道路 全線開通



2013 4月
京都縦貫自動車道
(沓掛IC～大山崎JCT・
IC間)開通

2014 1月
高速道路リニューアル
プロジェクト発表



7月
舞鶴若狭自動車道
全線開通

2011—
2015

2015 3月
徳島自動車道
(鳴門JCT～徳島IC間)
開通

6月
茨木技術研修センター
「I-TR(アイトレ)」開設



2016 4月
東九州自動車道
(椎田南IC～豊前IC)開通
北九州市から宮崎市が直結



2016—
2020

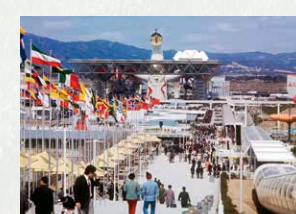
2018 3月
新名神高速道路
(高槻JCT・IC～神戸JCT)が
全て開通
宝塚北SAオープン



2020
中国自動車道
(吹田JCT～神戸JCT)の
リニューアル工事を開始



1970
日本万国博覧会開催



1994
関西国際空港開港



1995
阪神・淡路大震災発生
高速道路にも
甚大な被害



2016
4月 熊本地震発生



2016
4月 新名神高速道路有馬川橋
橋桁落下事故発生



2018
7月 平成30年7月豪雨
(37道路、2,299kmが通行止め)
9月 台風21号
(関西国際空港連絡橋タンカー船衝突)



2020
新型コロナウイルス感染症
の蔓延



Future



関西大学
社会安全学部 教授
土田 昭司 様

NEXCO西日本グループレポート2021を読んでみると豪雨災害への対応や地域と連携した新しい企画など、グループ理念に沿った活動がつぶさに分かり易くまとめられている。

特に、災害対応力の強化として、被災した4車線区間において上下線2車線運用による早期交通機能の確保、あるいは、河川氾濫等により地域の道路が寸断された際の緊急開口部の活用、一般道の代替としての高速道路無料措置などが取り上げられている。災害に対する強靱化はハードウェアである施設・設備の強化によることが基本であるが、今日さらに求められているのは上記のようなソフトウェア的な対応策を柔軟に活用する力であろう。実際にこれらのソフトウェア的対応策を実施して被災地から感謝されているとのことである。実施された対応策をマニュアル化して今後にも活

かしていただきたい。

新型コロナウイルス感染症流行は、日本中の人々の暮らしに大きな影響を与え続けている。そのなかで「SAPA2020とりもどそう!元気なニッポン」の合言葉により、SA・PAにおいて、利用されるお客様に対する感染予防対策と共に『新しい生活様式』の定着を推進する取り組み、あるいは、SA・PAのテナント各社を応援する取り組みが紹介されている。

コロナ禍においては、いわゆるエッセンシャルワーカーの方々が社会の維持に大きな力となっている。トップメッセージにおいて述べられているように、医療関係者とならんで物流を担う方々もエッセンシャルワーカーである。高速道路では物流のトラックなど業務交通の方々が多く利用されている。これらの方々を支援するために、SA・PAにおいて駐車場の拡充やコロナ禍においてもシャワーステーションの営業を継続したことは評価されることである。さらに長期的には、物流の効率化に資する後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備もポストコロナに向けた重要な施策であるといえる。NEXCO西日本には今後とも物流支援に寄与するポストコロナの取り組みを続けていただきたい。

第三者意見をうけて



代表取締役
専務執行役員
芝村 善治

今年度の第三者意見は、前年度に引き続き、関西大学社会安全学部教授の土田昭司様からいただきました。貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

災害対応力の強化では、中期経営計画「進化2025」において、減災・縮災等に資する道路構造への改良を目指し、ランプ部の路肩拡幅や崩落土砂の広がりを最小限に留めるための中央分離帯の剛性防護柵化などのハードウェアの対策を進めてまいります。一方で、土田様よりご意見いただきましたソフトウェアの対策と

して、災害対応で経験し、得られた知見を逐次「防災対策業務必携」等に反映し、被災状況に応じた柔軟な対応ができるよう、引き続き危機管理対応力の向上を図ってまいりたいと考えています。

また、エッセンシャルワーカーとして国民生活や社会経済活動を支えていただいている物流のトラックなど、業務交通の方々への機能強化・サービス向上として、大型車駐車マスの拡充、ダブル連結トラックに対応した駐車マスの整備、シャワーステーションの利便性向上などに加え、SA・PAでのキャンペーンなど、お喜びいただける企画を開催してまいりたいと考えています。

頂戴した物流支援に寄与するポストコロナの取り組みとしては、後続車無人隊列走行の実現を見据えた新名神高速道路の6車線化整備をはじめとして、将来を見据えた中期経営計画である「進化2025」に掲げた関係施策を着実に推進し、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献する企業グループを目指してまいります。

当社グループでは、ステークホルダーの皆さまにCSRに対する考え方や取り組みを分かりやすくお伝えするとともに、ご意見・ご期待を把握するためのコミュニケーションツールとして、「NEXCO西日本グループレポート」を編集し・発行しています。

本レポートは、2020年度中の事業活動を中心に社会的に関心が高く、タイムリーな話題を4つの特集として掲載するとともに、各ステークホルダーの皆さまと密接に関係する事業活動を掲載しています。また、ビジュアルを多用することで、高速道路に関する学生から高齢者の方まで幅広くお読みいただけるレポートを目指しました。

報告対象期間：

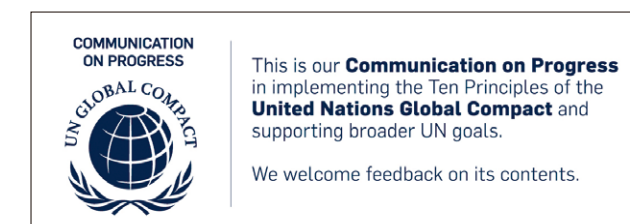
2020年4月1日～2021年3月31日
(一部2021年4月1日～2021年7月1日までの内容も含みます)

発行時期：

2021年7月（前回2020年7月、次回予定2022年7月）

参考にしたガイドライン等：

- 環境省「環境報告ガイドライン2018年版」
- GRIスタンダード
- 国連グローバル・コンパクトの10原則
- (財)日本規格協会「ISO26000:2010」(企業を含むあらゆる種類の組織の社会的責任に関する包括的ガイダンス)



当レポートは、国連グローバル・コンパクトの10原則への対応を報告するためUNGC本部に提出します。

レポート2020 へのアンケート結果

多くの皆さまからアンケートにご回答いただきまして誠にありがとうございました。

お褒めのお言葉やさらなる改善など、様々なご意見を参考にNEXCO西日本グループレポート2021を発行させていただきました。

ぜひ、NEXCO西日本グループレポート2021へのアンケートにつきましても、ご協力の程お願い申し上げます。

主なご意見

文字が多くて、読みづらい

- ・文字量が多く、読む気になれない。
- ・もう少し整理し、端的に表現することで読みやすくなるのでは、と感じた。

親しみにくく、興味が湧きづらい

- ・一般人には、興味がそそられる内容が少ない。
- ・全体的に少し堅苦しく感じる。
- ・渋滞対策、インフラ保全など知りたい情報が少ない。

改善ポイント

直感的に分かりやすく

文章をできるだけ簡潔にまとめ、大小のメリハリをつけたレイアウトに工夫しました。
また、写真やイラストを多用し、お客さまにイメージが伝わりやすいよう心がけました。

求められる情報の充実

お客さまからのご要望が多い内容に対して、当社の取り組みを該当ページにて紹介しています。

- ・渋滞対策 (P22 お客さま)
- ・災害対応力の強化 (P11 特集1)
- ・インフラの長期保全 (P13 特集2)
- ・新型コロナウイルスに負けない経済発展への寄与 (P19 特集4 P27 社会)